

# MITSUBISHI

D'reco 用 PC アプリケーションソフトウェア  
デジタルレコーダー用オプション

形名

**DX-PC60** Ver.2.5

**DX-PC61** Ver.1.0

取扱説明書

—for Windows® 2000—

—for Windows® XP—

—for WindowsVista®—

—for Windows® 7—

Copyright(C)2008(2009, 2010) 三菱電機株式会社

ALL RIGHTS RESERVED

250113A

---

## ライセンス契約書

---

三菱電機株式会社および本来の開発会社である第三者は、DX-PC60/DX-PC61(以下、本件ソフトウェアという)およびこれに付随する取扱説明書(「本件取扱説明書」)におけるすべての知的財産権を保有するものとします。

三菱電機株式会社は、本件ソフトウェアを使用するためのこの契約(「本契約」)における限定的かつ非独占的ライセンスおよび権利をユーザー(「本件ユーザー」)に付与するものとします。

本件ユーザーは本件ソフトウェアをリバースエンジニア、デコンパイル、または逆アセンブルしてはならないものとします。ただしこれは、こうした行為が本契約および適用される法律により明白に認められる場合を除き、またそのような場合に限定されることを条件とします。

本件ユーザーによる本件ソフトウェアまたは本件取扱説明書の無許可の複製、コピー、販売、輸入、輸出、使用、またはリースは、一部またはすべてを問わず、本契約および著作権法により固く禁止されています。配布元による特別な許可がない限り、基本的に本件ソフトウェアはパッケージ1つにつき1ライセンスを付与します。

本件ソフトウェアの仕様ならびに設計、および本件取扱説明書の内容は、本件ユーザーへの予告なく変更されることがあります。

本件ソフトウェアは、デジタル記録された音声データおよび画像データを再生、表示、コピー、および保存できるように設計されています。著作権保護されている音声データおよび画像データの本件ユーザーによる無断コピーは、本契約または著作権法により禁止されています。

三菱電機株式会社は、本件ソフトウェア使用中に本件ユーザーが音声データまたは画像データを送信したことに起因する本件ユーザーによるプライバシー、著作権、または知的財産権の侵害については一切責任を負わないものとします。

三菱電機株式会社は、本件ソフトウェア使用中に発生する損害賠償や請求については、本件ユーザーに対して一切責任を負わないものとします。

# もくじ

1. はじめに.....	7
1.1 特徴.....	7
1.2 動作環境.....	7
1.3 対応デジタルレコーダー.....	9
2. セットアップ.....	11
2.1 セットアップ(インストール).....	11
2.2 アプリケーションの削除.....	11
2.3 起動と終了.....	11
3. 主要3画面.....	12
3.1 ログイン画面.....	14
3.2 MainView.....	16
3.2.1 画面切り替えボタン.....	17
3.2.2 レコーダーリスト管理ボタン.....	17
3.2.3 レコーダー操作ボタン群.....	18
3.2.4 フィルタ設定ボタン.....	19
3.2.5 オプション設定ボタン.....	20
3.2.6 レコーダーリスト.....	20
3.2.7 イベントリスト.....	21
3.2.8 レコーダー接続(切断)ボタン.....	22
3.3 SingleView.....	23
3.3.1 カメラウィンドウ.....	24
3.3.2 カメラウィンドウパネル.....	25
3.3.3 カメラリスト.....	26
3.3.4 画面レイアウト系ボタン.....	27
3.3.5 取得データコントロール群.....	27
3.3.6 レコーダーセレクトボタン.....	28
3.3.7 フルスクリーンボタン.....	29
3.4 MultiView.....	30
4. 各種機能画面.....	31
4.1 レコーダー登録情報パネル.....	31
4.2 記録画像検索パネル.....	33
4.2.1 時刻検索タブ.....	34
4.2.2 アラームリスト検索タブ.....	34

4.2.3	ブックマーク検索タブ	36
4.2.4	保護データ検索タブ	37
4.3	レコーダーユーザー設定パネル	38
4.4	レコーダーメニュー設定パネル	40
4.4.1	設定ファイルの取得と登録	41
4.4.2	メニュー設定ファイルを編集する	41
4.5	レコーダー制御パネル	43
4.6	システムログリストパネル	44
4.7	オプション設定パネル	45
4.7.1	全般	45
4.7.2	ライブ/再生	47
4.7.3	カメラウィンドウ	48
4.7.4	シーンキャプチャ	50
4.7.5	DB(データベース)メンテナンス	51
4.7.6	Ext.Data	52
4.8	データマネージャー	53
4.8.1	スケジュールリストタブ	53
4.8.2	データリストタブ	55
4.8.3	区間ダウンロード設定パネル	56
4.8.4	データ CD/DVD の作成	58
4.9	グルーピング	60
4.9.1	グルーピングリストへの登録	60
4.9.2	登録したグルーピングの呼び出し	61
4.9.3	記憶させた画面配置でシーケンス表示する<パトロール機能>	62
4.9.4	ユーザーグルーピングボタンへのグルーピング割り当て	63
4.10	カメラウィンドウでの各種操作	64
4.10.1	カメラウィンドウを見やすくする<注視ウィンドウ機能>	64
4.10.2	表示中の画像をキャプチャする<シーンキャプチャ機能>	64
4.10.3	現在より少し前の記録画像を見る<直前シーン再生機能>	64
4.10.4	手動でアラーム記録を開始する<NET アラーム記録機能>	65
4.10.5	PTZ カメラをコントロールする<PTZ カメラ制御機能>	65
4.10.6	外部接続機器を遠隔操作する<MODEOUT 制御機能>	67
4.10.7	プリンタで印刷する	68
4.10.8	簡単区間ダウンロード	69
4.10.9	ボイスチャット	70
5.	通信で使用する	71

5.1	ハードウェアの接続	71
5.1.1	1対1でクロスケーブルを使用する例(LAN)	71
5.1.2	1対多でスイッチング HUB を使用する例(LAN)	71
5.1.3	1対多で ADSL ルータを使用する例(インターネット経由)	72
5.2	レコーダーとPCを通信できるよう設定する	72
5.2.1	レコーダーの IP アドレスの設定	72
5.2.2	レコーダーのポート番号の設定	73
5.2.3	PC の IP アドレスの設定	73
5.2.4	ping コマンドによる通信可否の確認	74
5.3	レコーダー登録をしてLIVEを見る	76
5.3.1	レコーダーを登録する	76
5.3.2	任意のレコーダーに通信接続する	77
5.3.3	SingleView(MultiView)に画面を変更する	78
5.3.4	画面レイアウトを変更する	78
5.3.5	表示しているカメラを変更する	79
5.3.6	その他の方法でのライブ開始	80
5.4	ライブ監視中にできること	81
5.4.1	ライブ音声を聞く	81
5.5	レコーダーの記録画像から見たいものを探す	83
5.5.1	ブックマークを登録する	83
5.5.2	再生音声を聞く	83
5.6	レコーダーから取得した画像をPCに保存する/印刷する	84
5.7	画像データを外部に持ち出せる形にする	85
5.8	レコーダーイベントのIP発報を受信する	86
5.8.1	レコーダーの IP 発報設定を行う	86
5.8.2	IP 発報受信のフィルタ設定、警報音設定を行う	87
5.8.3	IP 発報を受信する	89
5.8.4	発報イベント時の記録画像を確認する	90
5.8.5	イベントリストの表示を調整する(フィルタリング)	90
5.9	一括時刻合わせ設定を行う	91
6.	コピーデータの再生	94
6.1	コピーデータをデータマネージャーの管理下に置く	94
6.2	コピーデータを再生する	95
6.3	コピーデータビューワ(DX-Viewer)の機能	95
6.3.1	音声データを再生する	101
6.3.2	コピーデータの画像を検索する	102

6.3.3 コピーデータにブックマークをつける .....	102
6.3.4 オプション設定をする .....	103
6.3.5 フルスクリーン表示をする .....	105
6.3.6 コピーデータの画像フォーマットを一括変換する .....	105
7. 付 録 .....	107
7.1 制限事項 .....	107

Microsoft®、Windows®は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。(Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。)Windows Vista® は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本および/またはその他の国における登録商標または商標です。This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group. Compact Flash™(コンパクトフラッシュ™)は、サンディスク社の商標です。その他、記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中では“®”マークや“™”マークは明記していません。

- Windows 2000 は、Microsoft Windows 2000 Professional の略称として表記しています。
- Windows XP は、Microsoft Windows XP Home Edition/Professional の略称として表記しています。
- Windows Vista は、Microsoft Windows Vista Ultimate/Home Premium/Home Basic/Business の略称として表記しています。
- Windows 7 は、Microsoft Windows 7 Ultimate/Professional/Home Premium/の略称として表記しています。

本製品には対応レコーダーで記録した映像をパーソナルコンピュータ上で表示するプログラムが含まれています。かかるプログラムは、正規の商用ライセンス契約に基づいて Kakadu Software を用いて開発しました。

# 1. はじめに

DX-PC60/DX-PC61(以下、本ソフトウェアという)は、三菱電機(株)製デジタルレコーダーで記録されたメディアを、Microsoft Windows2000、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 で再生するアプリケーションソフトウェアです。

また、通信機能搭載シリーズとの組み合わせでは、通信機能を使って記録画像や現在の最新画像を取得したり、レコーダーの設定や操作を行うことができます。

## 1.1 特徴

- 接続レコーダーのリスト表示による動作状況監視・イベント監視
- 記録画像再生機能、最新画像取得機能、区間指定画像ダウンロード
- 時刻検索、アラームリスト表示・検索
- 複数レコーダー同時監視機能、画面レイアウト保存機能
- デジタルレコーダーの遠隔操作、デジタルレコーダーの遠隔設定
- PTZ カメラコントロール
- 発報受信機能
- 「FSM1」、「FSM2」、「FSM3」、「FSM4」フォーマットで記録されたデータの再生、および他のメディアにコピーされた記録データの再生(Windows Explorer の及ぶ範囲内)
- Windows に対応したプリンタでの印刷
- ブックマーク機能
- 音声再生機能 (一部条件除く)
- 汎用画像フォーマットへの一括画像変換 (JPEG、AVI)

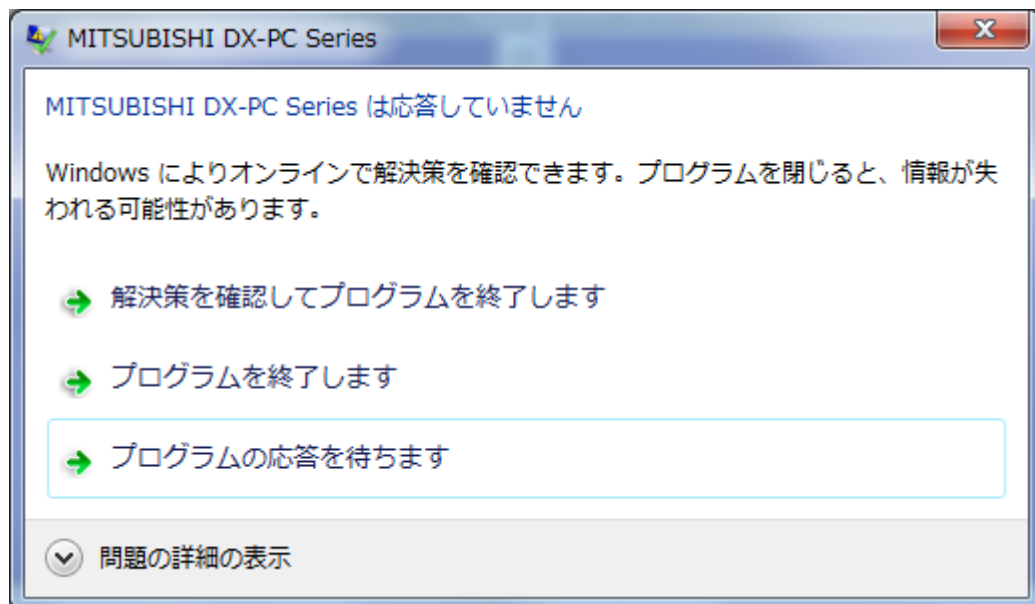
## 1.2 動作環境

- Intel PentiumD 3.0GHz 以上、Intel Core2Duo E6300 以上の CPU を搭載した IBM PC/AT 互換機
- MPEG 機の画像を表示させる場合、CPU は SSE2 に対応している必要があります
- Windows 2000 または Windows XP (32bit 版)、Windows Vista (32bit 版)、Windows 7(32bit 版/64bit 版)
- 1GB 以上の物理メモリ(推奨 2GB 以上)
- 1024 ピクセル×768 ライン以上の解像度  
24bit 以上のカラー表示ができるビデオアダプタとモニター(それ以下では、一部表示に制限が出ます)
- インストール時に 500MB 以上のハードディスクの空き領域
- 一括変換を使用する場合はサイズに応じたスワップ領域が確保可能なハードディスクの空き領域

- DirectX 8.0 以降のバージョンがあらかじめインストールされていること
- Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ(x86) があらかじめインストールされていること
- SoundBlaster などの Windows に対応したサウンドアダプタ
- 上記環境で正常動作する NIC(通信機能使用時)
- モニタ解像度 96DPI

#### お知らせ

- 動作環境は、すべての環境で動作を保証するものではありません。
- レコーダーからの応答が無い、または応答に時間がかかっている間に、Windows7 では下図のようなメッセージが表示されることがあります。レコーダーからの応答が返るまでは操作できなくなりますので、このような場合、「プログラムの応答を待ちます」を選択してそのままお待ち下さい。





### 1.3 対応デジタルレコーダー

レコーダーモデル	対応ソフトウェア		主機能
	DX-PC60	DX-PC61	
DX-TL6116H/618/614 シリーズ		○	・コピーデータ再生 ・通信機能
DX-SS108/104 シリーズ DX-TL6000/608/604 シリーズ	○	○	
DX-TL5000/5500 シリーズ DX-TL4500/4300 シリーズ KV-D1650 シリーズ	○	○	
DX-TL2500/3000/3500 シリーズ KV-D1600 シリーズ DX-TL30 シリーズ KV-D900 シリーズ	○	○	
DX-NT400 シリーズ KV-D400 シリーズ	○	○	・通信機能

#### お知らせ

- 本説明書は、基本的に 16ch 対応 5000 系デジタルレコーダーを対象に説明しているため、ご使用にされているレコーダーによっては ch 数や表示項目に関する説明、実際の動作が一部異なることがあります。
- 使用する PC の画面解像度に合わせて画面デザインが変化します。本説明書では主に SXGA (1280\*1024) 画面時の画面を用いて説明を行います。ボタン形状やボタン配置も多少変わりますが、アイコンデザインと使える機能には差はありません。
- レコーダーで記録したすべての画像を本ソフトで確認できるわけではありません。本ソフトに表示されない画像でもレコーダー本体でご確認できる場合があります。
- レコーダーの記録・コピー・動き検知などの設定により内部処理の負荷が高い場合には、PC との接続が困難になったり、動作が緩慢になることがあります。そのような場合は、レコーダーの負荷を低減させてお試ください。
- 長時間に亘って連続使用される場合や、ソフトの使用状況やPCの負荷状況によりソフトまたはPCの動作が緩慢になったり予期しない動作が発生する場合があります。定期的にソフト及びPCの再起動を実施して頂くことをお勧め致します。

- MPEG機での再生系操作は、その手順によってはリファレンスピクチャが現れるまで画像が乱れる場合があります。この部分をきれいな画像で再生したい場合は少し戻った位置から再生を開始してください。
- モデルによって対応していない機能のボタンはグレースアウト表示される、またはボタン自体が表示されない場合があります。

## 2. セットアップ

### 2.1 セットアップ(インストール)

本ソフトウェアをセットアップする前に、セットアップディスクの vcredist\_x86.exe を実行し、Microsoft Visual C++ 2008 SP1 再頒布可能パッケージ(x86) をインストールしてください。本ソフトウェアのセットアップ前にこのパッケージがインストールされていないと、本ソフトウェアが起動しませんので必ずインストールを実施してください。

本ソフトウェア のセットアップは、セットアップディスクの SetupLaunch.exe を起動してください。画面の指示に従って操作をすると、自動的にセットアップが実行されます。デフォルトでセットアップされるディレクトリは、C:\DXPC60 または C:\DXPC 61 となります。インストールフォルダは選択できますが、あまり深い階層にインストールすると正常に動作しなくなることがあります。また、Windows Vista、Windows 7 でご使用の際にはデフォルト設定のままインストールされることをお勧めします。インストール完了後には PC を再起動してください。

再起動せずに運用開始された場合、全ての機能が利用できない場合があります。

なお、過去にDX-PC\*\*シリーズのアプリケーションをインストールしたPCの場合は、確実にこれらをアンインストール(及び PC の再起動)の上、改めて本ソフトウェアのインストールを行って下さい。

### 2.2 アプリケーションの削除

本ソフトウェアを削除する場合は、コントロールパネルの[プログラムの追加と削除]から、[DX-PC60]または「DX-PC61」を選択し削除してください。また、スタートメニューの[DX-PC60 アンインストール]または[DX-PC61 アンインストール]コマンドを選択し、画面の指示に従って削除することもできます。

### 2.3 起動と終了

セットアップ終了後、スタートメニューに[DX-PC60]または[DX-PC61]が登録されます。以後、これを選択すると本ソフトウェアが起動します。アプリケーションログインの画面でログインするとメインウィンドウが表示されます。

終了するには、ウィンドウ右上の[×]ボタンをクリックします。

### 3. 主要3画面

本ソフトウェアは主要な3個の機能画面を持ち、これらを随時切り替えて使用することでユーザーの使用用途に応じた遠隔監視のソリューションを提供します。

MainView 画面



SingleView 画面



MultiView 画面

表示されるボタン類はその時の画面や操作対象の状況によって使用できないものもあります。これらの使用できないボタン類は薄い表示となって押せなくなります。

また、操作に必要なボタンはほとんどアイコン化されており、その上にマウスカーソルを置くことで、ボタンの名前やクリックした時の動作、押せない場合はその理由など、ボタンに関わる説明文を表示させることができます。この説明表示はオプション設定の「4.7.1 全般」にある[コントロール説明]により表示させる/させないの設定を変更することができます。なお、説明が表示されるのは最前面のウィンドウ及びパネルのみとなります。またすべてのボタンについて説明が表示されるわけではありません。





#### お知らせ

4.7.1 項オプション設定にある権限設定を行い、使用制限が出たボタンに関しては「現在は接続していないため・・・使えません」などの実際とは違う理由が表示されることがあります。

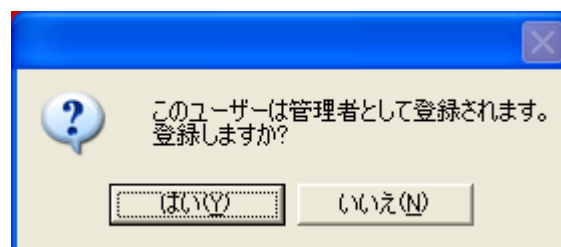
### 3.1 ログイン画面

スタートメニューの中から本ソフトウェアを選択して起動すると、下図のようなアプリケーションログイン画面が開きます。これは本ソフトウェアとしてのログイン画面であり、レコーダー毎のログイン認証とは違うものです。ここで入力したユーザー毎に各種設定を記憶することになります(4.9 項グルーピング機能など)。またユーザー毎の機能制限(4.7.1 項内 ユーザ毎機能制限機能)もここでのログインから始まります。




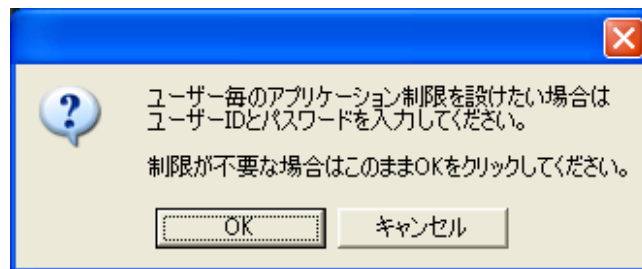
ユーザー名とパスワードを入力し、 ボタンをクリックするとログインします。ここでログインせずに終了したい時は  ボタンをクリックして下さい。

初めてユーザー名を入力した時は下のようなメッセージが現れます。ここで[はい]を選択すると、そのユーザー名を管理者ユーザーとして登録することができます。この管理者ユーザーは決して削除することのできないマスターユーザーとなります。また、マスターユーザーの登録したレコーダー情報が最も重要な位置づけとなり、イベントリスト(3.2.7 項)での発報元欄の表示はマスターユーザーのもので表示されます。また、マスターユーザーで登録されていないレコーダーの発報元欄は空白で表示されます。



## お知らせ

ユーザー名/パスワードに何も設定しない(空白)まま登録することもできます。この場合、内部的には自動的にスペースが入力されたものとして動作しますので、ユーザー名=(スペース)、パスワード=(スペース)となるような新規ユーザーを登録することはできません。何も設定しない(空白)まま  ボタンを押すと、以下のメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックすると以後自動でアプリケーションログインが行なわれるようになります。



自動ログインを取り消したい場合は「オプション設定」の全般項目にある「ユーザー制限を行なう」ボタンをクリックしてください。アプリケーションが終了しユーザー制限モードで起動します。このボタンが有効になるためにはマスターユーザーと同等の権限を持ったユーザーの存在が必要です。

ユーザー制限開始後、再びログイン時のユーザー名/パスワードが空白のユーザーを復活させ、自動ログインの動作モードに戻るためには、「ユーザー制限を停止する」ボタンをクリックしてください。このボタンは先の「ユーザー制限を行う」ボタンが動作モードによって名称が変わって表示されるようになるものです。





### 3.2.1 画面切り替えボタン

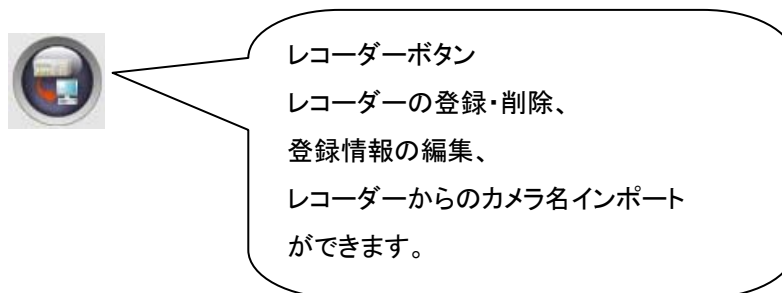
MainView 画面上部中央にある主要3画面の間を遷移するためのボタンです。

SingleView、MultiView 画面でも同じ位置に同じボタンが配置されています。

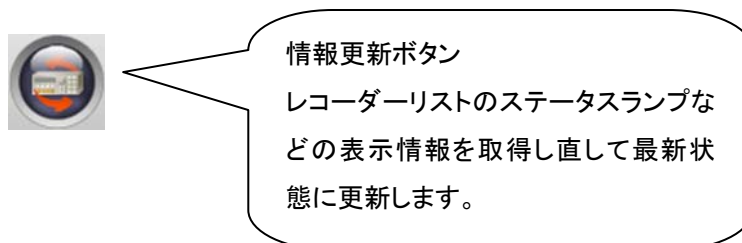


### 3.2.2 レコーダーリスト管理ボタン

MainView 画面左上にある、レコーダーリストに関わる操作を行うためのボタンです。



MainView 画面右下にある、レコーダーリストに関わる操作を行うためのボタンです。



#### お知らせ

カメラタイトルをインポートするには、そのレコーダーに接続する際に、設定権のある利用者IDでログインし、そのレコーダーの設定用ポートが他のユーザーによって使用されていないことを確認してください。インポートを行うと、レコーダー登録時に登録したカメラ名は、上書きされます。

### 3.2.3 レコーダー操作ボタン群

MainView 画面右下部にある、各レコーダーを扱うためのボタン群です

左から「検索(MainView 画面では動作しません)」「レコーダー制御」「データマネージャー」「レコーダー設定」「システムログリスト」です。ドロップダウンリストで選択できるものはレコーダーのエリア(デバイス)種別です。このエリア(デバイス)選択は他にも検索パネルやカメラウィンドウパネルなどにも配置されており、それぞれ連動して動作します。



- ・ 検索ボタン(MainView 画面では動作しません)

このボタンをクリックすると検索パネルが開きます

検索機能の詳細な使い方は 4.2 項 画像検索をご覧ください。

- ・ レコーダー制御ボタン

遠隔制御を行いたいレコーダーをリストから選択し、このボタンをクリックするとレコーダー制御パネルが開きます。レコーダー制御パネルは各レコーダーのフロントデザインそのものになっています。

レコーダー制御の詳細な説明は 4.5 項レコーダー制御パネルをご覧ください。

- ・ データマネージャーボタン

データマネージャーを表示させます。データマネージャーでは記録画像データのダウンロードや、そのスケジューリング、ダウンロードしたデータの管理・再生などを一括して取り扱います。

データマネージャーの詳細な使い方は 4.8 項データマネージャーをご覧ください。

- ・ レコーダー設定ボタン

メニュー設定を編集したいレコーダーをリストから選択し、このボタンをクリックするとレコーダー設定パネルが開きます。

レコーダー設定の詳細な使い方は 4.4 項レコーダーメニュー設定パネルをご覧ください。

- ・ システムログリストボタン

システムログリストを閲覧したいレコーダーをリストから選択し、このボタンをクリックするとシステムログリストパネルが開きます。

システムログリストの詳細な説明は 4.6 項システムログリストパネルをご覧ください。

### 3.2.4 フィルタ設定ボタン

MainView 画面にある各種フィルタ設定を行うためのボタンです。



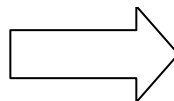
フィルタ設定ボタンをクリックすると下のようなパネルが開き、レコーダーリストなどのフィルタ設定を行うことができます。フィルタ設定パネルで設定できるフィルタはレコーダーリストの他にイベントリスト、ダウンロードデータリスト、コピーデータリストなどがあり、それぞれタブで切り替えて使用します。

適用したいフィルタ項目にチェックマークを入れます



No.	レコーダー名	接続	IPアドレス
1	京都本社	<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.1.1
2	東京支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.2
3	横浜支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.3
4	静岡支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.4
5	名古屋支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.5
6	奈良支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.6
7	大阪支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.7
8	京都倉庫	<input type="checkbox"/>	192.168.1.8

フィルタ適用



No.	レコーダー名	接続	IPアドレス
1	京都本社	<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.1.1
2	京都倉庫	<input type="checkbox"/>	192.168.1.8

※フィルタを適用する操作については  
3.2.6 項レコーダーリストを参照下さい。

### 3.2.5 オプション設定ボタン

MainView 画面にある、オプション設定パネルを表示させるためのボタンです。

オプション設定パネルでは本ソフトウェアの動作全般に関する詳細設定を行うことができます。

オプション設定の詳細な内容については 4.7 項オプション設定パネルをご覧ください。



### 3.2.6 レコーダーリスト

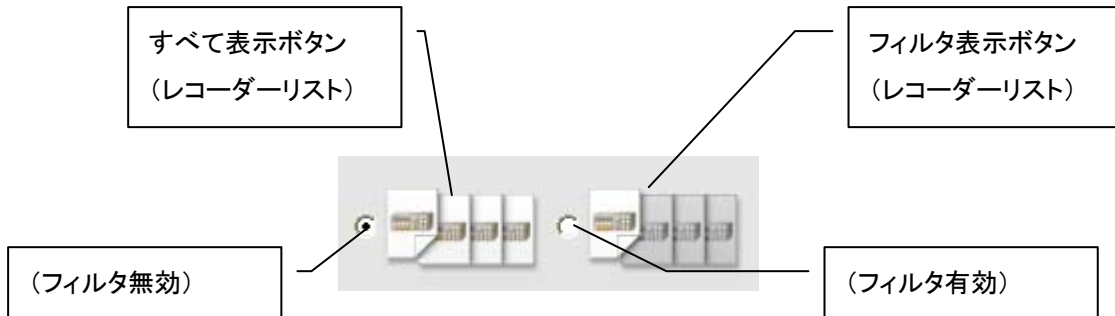
レコーダーの接続状況、動作状況などを表示します。

レコーダー接続ボックス  
チェックを入れると接続状態になり、ステータスランプ等が有効になります。チェックを外すことで通信を切断できます。

No.	レコーダー名	接続	IPアドレス	ポート番号	ユーザー名	ログインポート	電源	タイマー	記録	再生	ロック	メニュー表示	アラームホールド	状態
1	京都研究所	<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.000.071	53705	root	Super User	●	●	●	●	●	●	●	
2	大阪本社	<input type="checkbox"/>	192.168.000.100	53705			●	●	●	●	●	●	●	
3	名古屋支社	<input type="checkbox"/>	192.168.000.011	53705			●	●	●	●	●	●	●	
4	横浜支店	<input type="checkbox"/>	192.168.000.05	53705			●	●	●	●	●	●	●	
5	静岡支店	<input type="checkbox"/>	192.168.000.05	53705			●	●	●	●	●	●	●	
6	東京支社	<input type="checkbox"/>	192.168.000.05	53705			●	●	●	●	●	●	●	
7	兵庫倉庫	<input type="checkbox"/>	192.168.000.05	53705			●	●	●	●	●	●	●	

選択されたレコーダーはこのように表示されます。選択行をダブルクリックすると SingleView 画面に移行します。

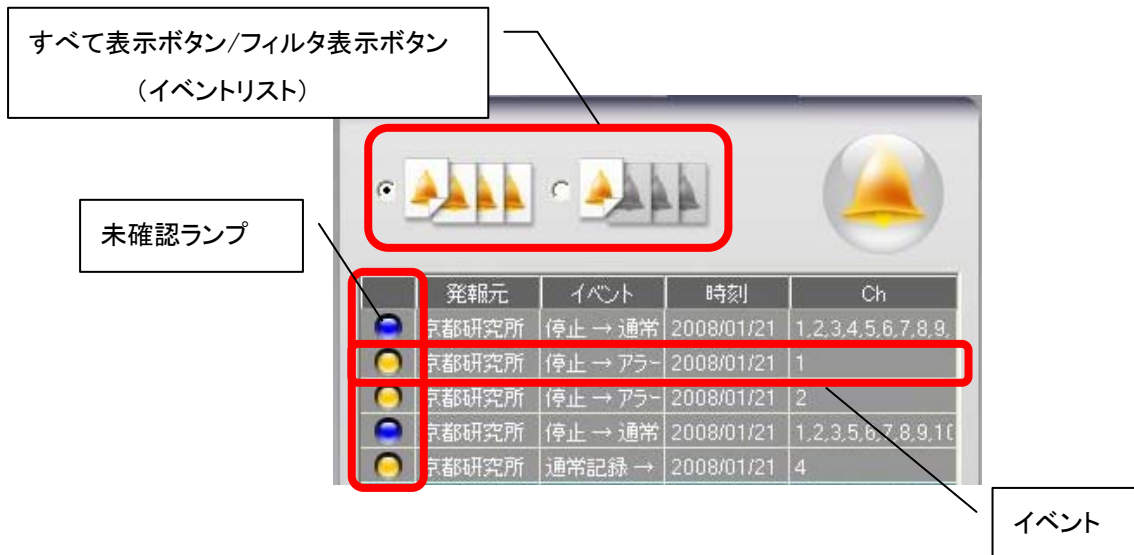
レコーダーステータスランプ・状態表示  
レコーダーの動作状態をランプや文字で表します。  
ダブルクリックすると ON/OFF 可能なものもあります。  
左側より 電源/タイマー/記録/再生/ロック/メニュー表示/アラームホールドについての表示になります。  
ランプが黒色の時は OFF を表しそれ以外の色が点灯している時は ON 状態を表示しています。レコーダーの動作状態によっては操作が効かない場合があります



リストの左上にあるラジオボタンはレコーダーリストのフィルタリング有効/無効を切り替えるボタンです。フィルタリングについての詳細な内容は 3.2.4 項 フィルタ設定をご覧ください。

### 3.2.7 イベントリスト

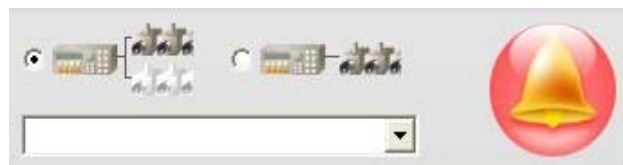
レコーダーからの IP 発報イベントを受信し、リストとして表示します。(5.8 項参照)



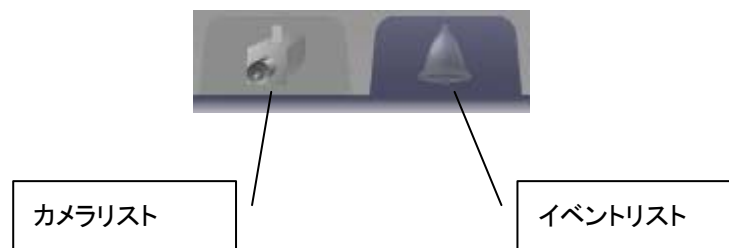
イベントを受信するとリスト上のベルが鳴動します。

鳴動を停めるにはベルをクリックします。

SingleView/MultiView ではこのベルをクリックすることでカメラリストとイベントリストが切り替わります。

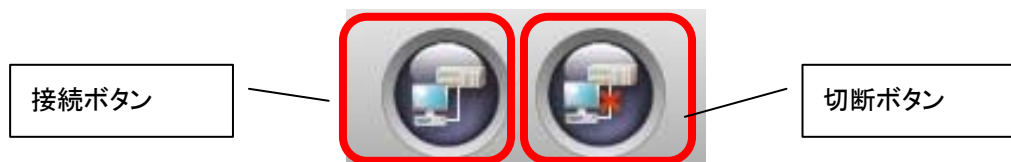


イベントリスト表示をカメラリスト表示に戻すにはリスト右上のカメラアイコンをクリックします。その逆にカメラリストからイベントリストへの表示切り替えもこのアイコンから操作可能です。



### 3.2.8 レコーダー接続（切断）ボタン

レコーダー一個々の接続、切断を操作するために接続パネル及び切断パネルを表示します。



接続ボタンをクリックすると登録レコーダーのうち、未接続のレコーダーだけがリストアップされたパネルが表示されます。



リストから接続したいレコーダーを選択し、右側の接続実行ボタンをクリックすれば接続されます。

- SingleView で画像表示中のレコーダー以外に接続すると表示レコーダーが切り変わります。
- MultiView で画像表示中のレコーダー以外に接続するとカメラリストに追加されますが、表示は変わりません。表示に追加するには「5.3.5 項表示しているカメラを変更する」を参照して下さい。

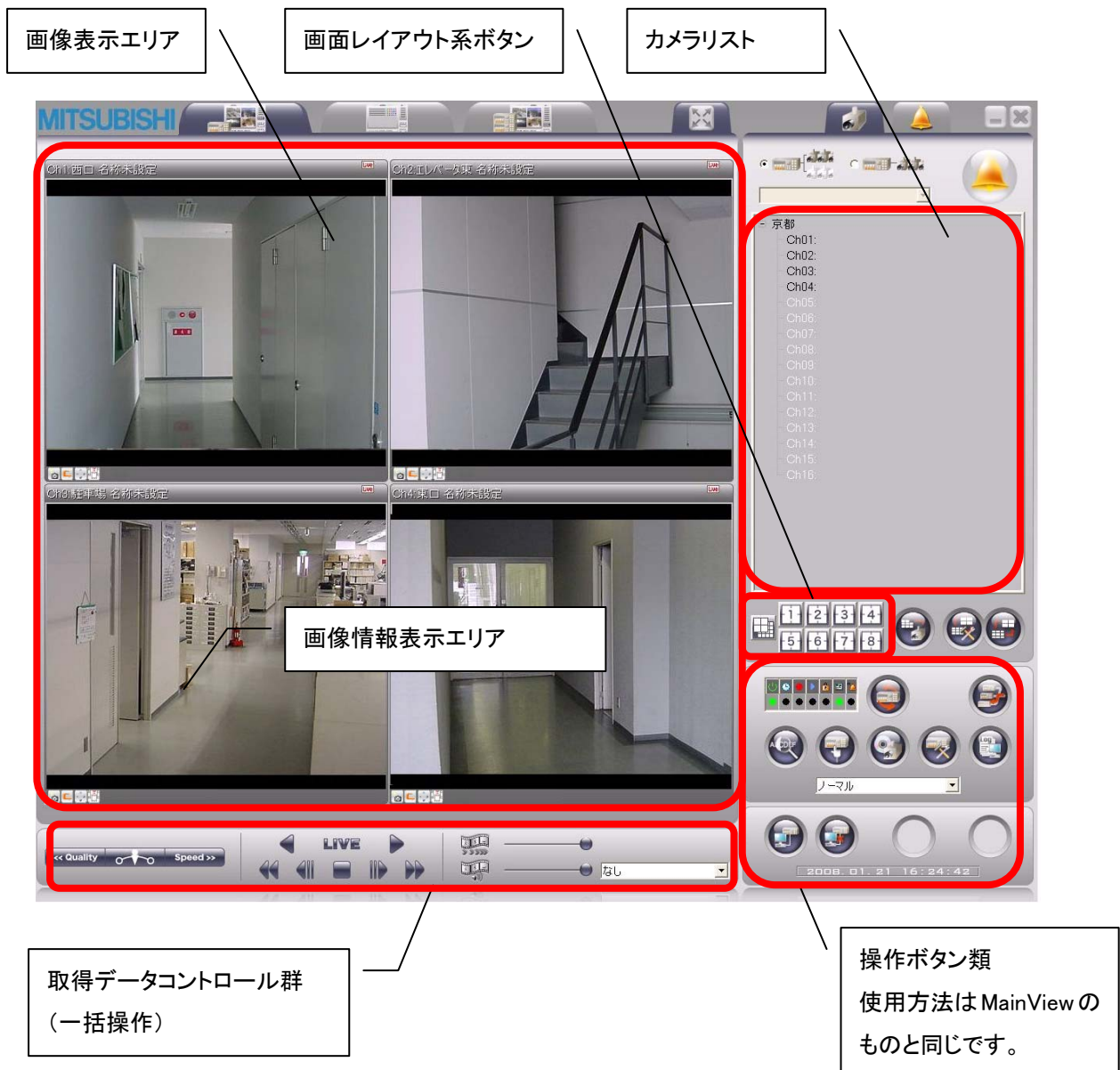
同様に切断ボタンをクリックすると登録レコーダーのうち、接続中のレコーダーだけがリストアップされたパネルが表示されます。リストから切断したいレコーダーを選択し、右側の切断実行ボタンをクリックすれば切断されます。

### 3.3 SingleView

SingleView 画面には以下のいずれかの操作で遷移できます。

- ・ MainView/MultiView 画面から SingleView 遷移ボタンをクリックする
- ・ MainView 画面でレコーダーをリストから選択してダブルクリックする

SingleView 画面は1台のみのレコーダーに関してライブ画像や再生画像を表示し、高度な制御(PTZカメラ、ModeOut 端子など)を行うための画面です。



### 3.3.1 カメラウィンドウ


カメラ画像ひとつひとつを表示するためのウィンドウです。上部の画像情報表示エリアには登録されたカメラ名が表示されます。記録データの再生時やライブ中に日時情報が表示されます。ライブ中の日時情報表示のON/OFFはオプション設定パネル(4.7項参照)で変更可能です。ウィンドウの枠には各種のクイックアクセスボタンと、ウィンドウ状態を示すアイコンが置かれています。クイックアクセスボタンと状態表示アイコンはオプション設定パネル(4.7項参照)で表示をOFFにすることも可能です。使用しているモニターのサイズによりクイックアクセスボタンの配置は変更されることがあります。



<p>注視ウィンドウボタン(4.10.1項) そのカメラだけの表示に切り替えます</p>		<p>PTZカメラ制御ボタン(4.10.5項) PTZカメラ制御パネルを表示します</p>
<p>カメラウィンドウパネルボタン(3.3.2項) カメラウィンドウパネルを表示します</p>		<p>ModeOut制御ボタン(4.10.6項) ModeOut制御パネルを開きます</p>
<p>シーンキャプチャボタン(4.10.2項) 表示中の画像を所定場所に保存します</p>		<p>印刷ボタン(4.10.7項) 表示中の画像を印刷します</p>
<p>直前シーン再生ボタン(4.10.3項) 今見ていた直前シーンを表示します</p>		<p>簡単区間ダウンロードボタン(4.10.8項) 区間ダウンロードパネルを開きます</p>
<p>NETアラーム記録ボタン(4.10.4項) レコーダーにアラーム記録指示を出します</p>		<p>ボイスチャットボタン(4.10.9項) PCからレコーダーに音声を送信します</p>



### 3.3.2 カメラウィンドウパネル

クイックアクセスボタンにあるカメラウィンドウパネルボタン  をクリックするとカメラウィンドウパネルが表示されます。オプション設定でカメラウィンドウパネルボタンを非表示にしていた場合、カメラウィンドウ内の画像表示部分をクリックすることでこのパネルを表示させることができます。マルチビューのカメラウィンドウパネルとは表示される項目が異なります。



始めに表示されるのは主要コントロール部です。カメラウィンドウに表示されている画像のライブや再生方法を切り替えたり、ブックマーク検索用のブックマークを登録したり、ModeOut や PTZ コントロールパネルを呼び出したりできます。

パネル展開ボタンをクリックすると、次の時刻検索部が展開されます。時刻検索部ではカレンダー、ドロップダウン、スライダーなどを利用して日時を設定し、検索ボタンをクリックすることでそのカメラに絞り込んだ時刻検索が行えます。

さらにパネル展開ボタンをクリックすると、次に画質調整部が開きます。ここは上からデコードレベル、ライブ画質、再生画質を調整するスライダーになっています。これらの設定の意味、効果は以下の通りです。

**デコードレベル** : PC にデータが届いてから、どの程度詳細に表示させるかの調整です。レコーダーから送られるデータ量には関係しませんが、PC の能力に大きく依存します。PC の能力と必要な画質（画像の粗さ）に応じて使い分けて下さい。

**ライブ画質** : ライブ画像をレコーダーから送り出す際に、どの程度のデータサイズで送り出すかを設定します。主に通信回線帯域に応じて調整すべきものです。画質を良くするとデータサイズが大きくなり、画像1枚1枚の更新が遅くなります。この設定はカメラ毎に設定できます。

**再生画質** : 記録データの再生時の画質を設定します。考え方はライブ画質と同じです。この設定はカメラ毎に設定できます。

#### お知らせ

キーボードの Ctrl キーを押しながらマウスのスクロールローラーを回すとカメラウィンドウパネルの透過度が変わります。なお、上記の設定項目はレコーダーのモデルによって利用できないものもあります。

### 3.3.3 カメラリスト

カメラリストは現在表示中のカメラの状況を示します。カメラリストには[全表示]と[グルーピング表示]の2種類の表示モードがあり、これらは一番上のラジオボタンで切り替えて表示させることができます。

[全表示]の場合は現在接続中のレコーダーと、その登録カメラの全てをツリー上に表示します。この時カメラ名がグレーになっているものは画面上に表示されていないカメラです。

[グルーピング表示]の場合は現在実際に表示されているものに絞られた表示となります。

カメラリストからカメラをドラッグし、カメラウィンドウ内にドロップすればそのカメラウィンドウの表示が切り替わります。また、カメラリストでカメラをダブルクリックすると、そのカメラの1画表示に切り替わります。

登録カメラ全表示状態

グルーピング表示状態



### 3.3.4 画面レイアウト系ボタン

グルーピングとは画面に表示されたカメラの位置や大きさなどの画面レイアウト情報をひとまとめにして記憶させる機能です。

所望のカメラ配置に表示させ、それをグルーピング設定ボタンでグルーピングとして登録します。このグルーピングは1～8のユーザーグルーピングボタンに登録することもできますし、カメラリスト(3.3.3 項)の上部にあるドロップダウンリストから選択して切り替えることもできます。


いくつかのグルーピングを巡回して表示させたいときはパトロール設定を行い、パトロールボタンで巡回を開始させます。



### 3.3.5 取得データコントロール群

レコーダーからの画像や音声をコントロールするためのボタン群です。

右側は画像更新スピードを決めるスライダーと、ライブ音声のON/OFFやディレイ量を調整するためのスライダーとドロップダウンリストです。

画像再生(ライブ)系のコントロールボタンが揃っています。カメラウィンドウパネル(3.3.2 項)のコントロールボタンとは違い、画面上の全カメラを統一して操作するためのボタンです。[Speed][Quality]は3段階に画質とスピードを調整します。一般的に画質を上げるとスピードは落ち、スピードを上げると画質は落ちます。なお、中央の  ボタンは画質とスピードをバランス良く設定します。また、モデルや動作状態によって即効性を実感できない場合があります。




#### お知らせ

権限が足りない場合は設定が反映されないレコーダーのモデルがあります。

### 3.3.6 レコーダーセレクトボタン

ステータスランプの横にあるアイコンはレコーダーセレクトボタンです。SingleView ではレコーダーの切り替えの必要性が発生しますが、接続ボタンでは未接続のレコーダーしか表示されないため、一旦 MainView に戻らないと切り替えられません。このようなときはレコーダーセレクトでレコーダーの切替を行って下さい。



アイコンをクリックすると下図のようなパネルが開きます。ここには SingleView で表示中のレコーダーを除く全登録レコーダーが接続の有無にかかわらずリスト表示されます。切り替えたいレコーダー行を選択し、 ボタンをクリックして下さい。

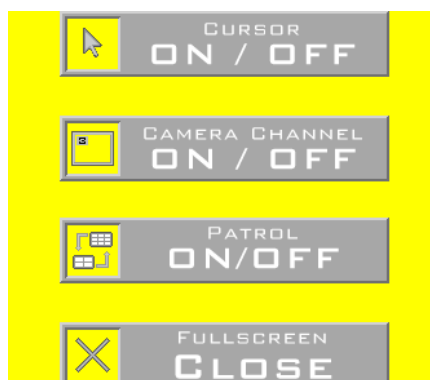


### 3.3.7 フルスクリーンボタン



画面表示しているカメラ画像を PC のスクリーンいっぱいに拡大表示させるボタンです。フルスクリーン時に何らかの操作が必要なときはフルスクリーンモードから抜け出して下さい。

フルスクリーンモードを解除するには画面上でマウスの右クリックを行い、画面中央部分に出現する[× FullscreenClose]ボタンをクリックします。フルスクリーンモード時に右クリックで出てくるボタンにはマウスの表示/非表示を切り替えるボタンとカメラ名/番号の表示非表示を切り替えるボタンとパトロール ON/OFF を切り替えるボタンがあります。



#### お知らせ

フルスクリーンへの切替には多少時間がかかることがありますが、異常ではありません。ごく稀にフルスクリーン状態で右クリックを行っても上記のようなボタンが表示されないことがあります。このような場合にはキーボードの Ctrl キーと End キーを同時押しすることでフルスクリーンモードを解除できます。

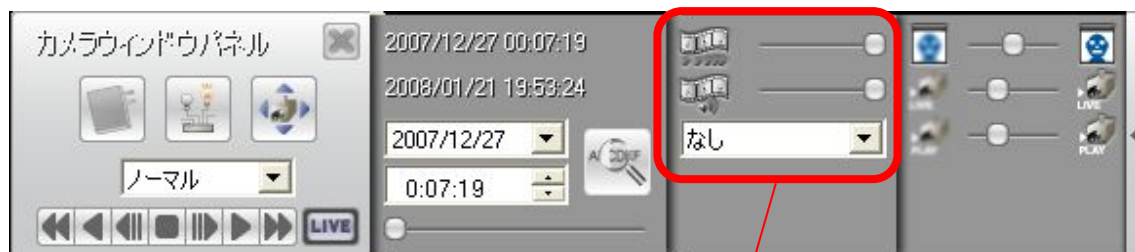
### 3.4 MultiView

MainView/SingleView 画面から MultiView 遷移ボタンをクリックすることで MultiView 画面へ遷移できます。MultiView 画面は複数レコーダーの画像データをシームレスに取り扱うための画面です。

MultiView 画面では基本的に SingleView 画面と同じ操作方法で画像データの表示を変えたり、PTZ カメラなどをコントロールすることができます。カメラウィンドウパネルを利用すればカメラ Ch 指定での時刻検索も可能です。



MultiView ではカメラウィンドウパネルにライブ音声と画像更改速度のコントローラーが追加されます。



ライブ音声、画像更改速度調整

## 4. 各種機能画面

### 4.1 レコーダー登録情報パネル

レコーダーを登録・編集するための画面です。

MainView 画面のレコーダーボタン(3.2.2 項)をクリックし、表示されたメニューから[レコーダー登録]を選択すると表示されます。同様に登録済みのレコーダー情報を編集するときも同じ構成のパネルを使用します。登録済みのレコーダーをリストから選択した状態でレコーダーボタン(3.2.2 項)をクリックし、表示されたメニューから[レコーダー編集]を選択すると表示されます。

The screenshot shows the 'Recorder Registration Information' dialog box. It contains fields for 'Recorder Type' (DX-TL5000), 'Recorder Name' (名称未設定), 'IP Address' (192.168.0.100), and 'Port Number' (53705). Below these is a table with columns 'Use', 'Ch', and 'Camera Name'. The 'Use' column has checkboxes for channels 1, 2, and 3, all of which are checked. At the bottom of the dialog are buttons for 'OK', 'Cancel', and 'Help'. Red boxes and lines highlight the 'Recorder Property Button' (top left), 'Settings Button' (top right), 'Help button' (bottom right), 'User ID input field' (bottom right, containing 'root'), 'Password input field' (bottom right, containing '\*\*\*\*\*'), and 'Local IP Address' (bottom left, containing '192.168.0.100').

レコーダー登録情報

レコーダー種別: DX-TL5000      レコーダー名: 名称未設定

IPアドレス: 192.168.0.100      ポート番号: 53705

使用	Ch	カメラ名
<input checked="" type="checkbox"/>	1	
<input checked="" type="checkbox"/>	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	3	

ポートフォワードを使用する       デフォルトユーザー

ローカルIPアドレス: 192.168.0.100

※ルータなどを使用し、ポートフォワードされる環境下で接続されているレコーダーの場合、IPアラーム発報受信時にそのレコーダーを正しく特定するためにこの設定が必要です。

root

\*\*\*\*\*

起動時に自動接続する

レコーダープロパティボタン      設定ボタン

利用者ID入力部      パスワード入力部

#### 「レコーダー種別」

接続対象となるレコーダーのモデルを選択します。ここにモデル名が現れないレコーダーには接続できません。

#### 「レコーダー名」

カメラリストなどに表示される登録レコーダー名などを入力します。設置場所などを入れておくなど、自由にご使用ください。

#### 「IPアドレス」

接続対象となるレコーダーの IP アドレスを入力します。

#### 「ポート番号」

接続対象となるレコーダーのポート番号を入力します。レコーダー側の設定を特に変えていなければそのまま 53705 をご使用下さい。

#### 「使用」

使いたいカメラだけにチェックマークを入れます。使わないカメラのチェックマークを外しておくことがカメラリストの表示などを見やすくし、またレイアウト切替の動作でも無駄が出ません。

#### 「Ch」

レコーダーのカメラ番号を表します。

#### 「カメラ名」

カメラリスト、カメラウィンドウの左上などに表示されるカメラ名を入力します。詳細な設置場所などを入れておくなど、自由にご使用ください。

#### 「起動時に自動接続する」

本ソフトウェアを起動しただけで自動的に接続されるべきレコーダーの場合はここにチェックマークを入れてください。レコーダーとの通信時に予期しない切断が行なわれた場合にも自動接続を行いません。

#### **お知らせ**

MPEG 機ではネットワーク異常などで切断後、自動再接続しても画像が取れないことがあります。

このような場合は 10 分以上後に手動で再接続を行ってください。

パトロール設定などでも同様の状況になることがあります。

#### 「デフォルトユーザー」

ここにチェックマークを入れて拡張タブを表示し、そのレコーダーの利用者 ID とパスワードを予め入力しておくことで、自動接続及び手動接続時にレコーダーログイン用の利用者 ID /パスワード入力を省略できるようになります。チェックマークを外して拡張タブを非表示にするとこの機能は OFF になり、接続の度にレコーダーへのログインを要求されます。



#### 「レコーダープロパティボタン」

レコーダーの付帯情報を一緒に登録しておくためのプロパティパネルを表示します。郵便番号、住所その他の情報が自由に登録できます。

#### 「ポートフォワードを使用する」

IP マスカレードなどで登録される場合、IP アドレスがレコーダー本体のものではなくなります。このような場合にはイベントの IP 発報を受信しても発報先を特定することができません。ここにチェックマークを入れて拡張タブを表示し、IP マスカレード下でのレコーダー本体の IP アドレスを入力しておくことで、イベント発報元がどのレコーダーであるかを特定できるようになります。

## 4.2 記録画像検索パネル



SingleView にある検索ボタン

をクリックすると検索パネルが開きます。

検索パネルは複数のタブで検索方法を切り替えることができるようになっています。

いずれのタブにも共通に存在する右上のドロップダウンはレコーダーの検索エリア(デバイス)を指定するものです。パーティション運用のレコーダーなどはここを切り替えてご使用下さい。

また、上部バーの右端にはパネルを閉じるための×ボタンと、パネルを縮小するためのボタンが置かれています。ボタンを押して縮小されたパネルはボタンで元に戻すことができます。MPEG 機の場合の検索操作は5秒程度のライブや再生のあと、画像送信が安定してから行ってください。RTP 通信を使用する MPEG 機の場合、ネットワークでの損失具合によっては所望の検索画像データが得られない場合があります。

このような場合、何度か検索を繰り返すか、しばらくライブや再生を行って帯域フィードバックが効いてから検索すると結果が得られる場合があります。



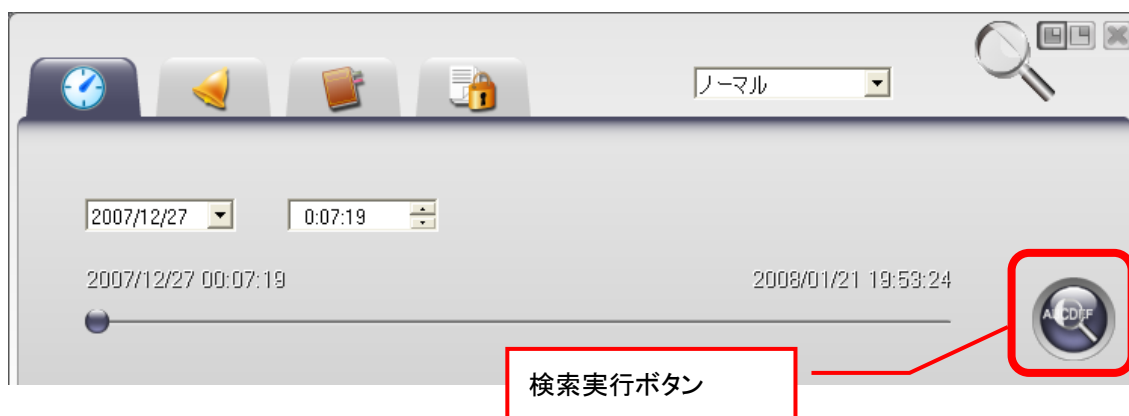
パネル縮小表示

#### 4.2.1 時刻検索タブ

日時を指定して記録画像の検索を行う場合に使用します。


下部に表示されたスライダーで大体の日時を指定し、その後にドロップダウンやスピンドロップで日時を詳細に指定しなおすのが効率的です。

所望の日時を設定したら右下の検索実行ボタンをクリックします。



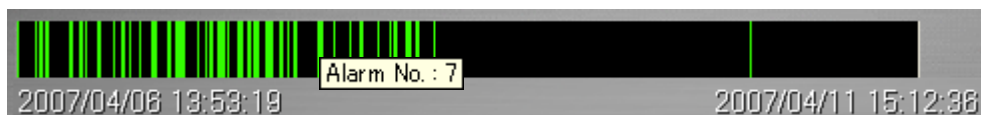
#### 4.2.2 アラームリスト検索タブ

レコーダーの保持しているアラームリストを取得し、その中から所望のアラーム記録画像を検索することができます。

まず更新ボタン  をクリックし、最新のアラームリストをレコーダーから取得します。この時、レコーダーのモデルによってはリスト取得範囲やカメラ Ch、取得総数などの指定を行うことができます。

取得されたアラームリストは下部のアラーム分布バーとリスト表示部に表示されます。

アラーム分布バーは全体の中でのアラーム記録の存在日時に応じて細い線で表されます。この細い線にマウスを近づけるとアラーム番号などの情報が表示され、クリックすることで検索が実行されます。アラーム分布バー上で右クリックを行うとバー表示の拡大や縮小を行えるコントロールが表示されます。アラームが密集している時など、個々に分離して表示したい場合に使用します。



アラーム分布バーでは、混み合ったバーの部分をクリックすると下図のようなメニューが表示されます。ここで[詳細]を選択するとその部分を中心に分布が拡大して表示されます。[広域]は拡大した表示を戻す時に使います。



リスト表示は選択して右の検索実行ボタンをクリックするか、そのままダブルクリックすることで検索を実行します。

アラームリストは右最下部のリスト保存ボタンでテキストファイルとして保存することもできます。

次の/前のアラームリスト (10件)を取得します

検索したいデバイスを選択して下さい

アラームリストの取得条件を設定します

アラームリストを取得します

アラームリスト

2007/12/27 20:21:14 ~~~~~ 2008/01/30 15:54:32

2008/01/30 21:54:34 取得アラーム数 10

センサー

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

10 10

クリックすると検索を開始します

アラームリストから構築したアラーム記録の分布図.

No.	時刻	センサー	アラームタイプ
1	2008/01/30 15:54:30	15	アラーム
2	2008/01/30 15:54:30	14	アラーム
3	2008/01/30 15:54:30	13	アラーム
4	2008/01/30 15:54:30	10	アラーム
5	2008/01/30 15:54:30	11	アラーム
6	2008/01/30 15:54:30	9	アラーム
7	2008/01/30 15:54:08	4	アラーム
8	2008/01/30 15:54:08	2	アラーム
9	2008/01/30 15:54:08	3	アラーム
10	2008/01/30 15:54:08	1	アラーム

アラームリストをテキストとして保存します

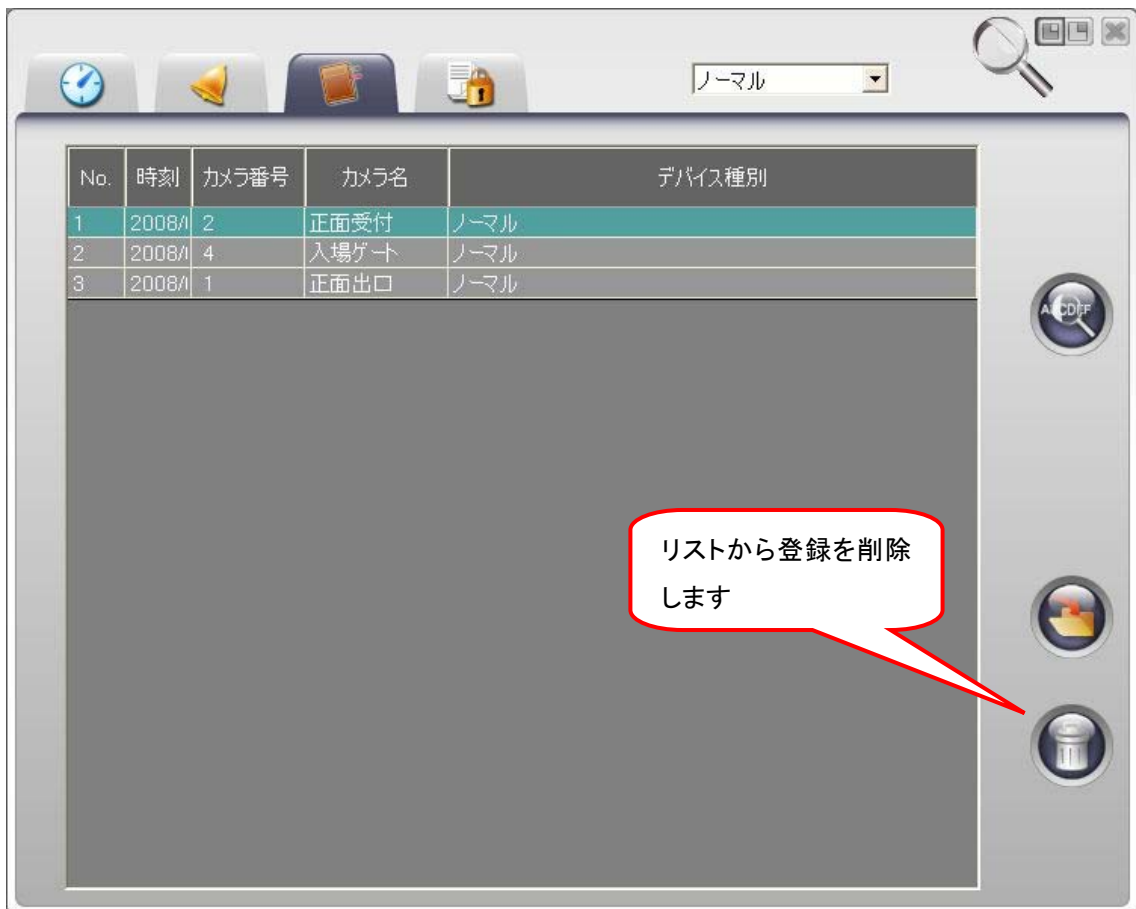
アラームリストです。項目欄をクリックするとソートされます。リスト行を選択してダブルクリックすることで検索を開始します。

#### 4.2.3 ブックマーク検索タブ

記録画像を再生中に、マークしておきたい画像にはブックマークを付けることが可能です。(5.5.1 項参照)このブックマークを元にリスト検索を行うためのタブです。


リストから選択して検索実行ボタンをクリックすると検索実行です。

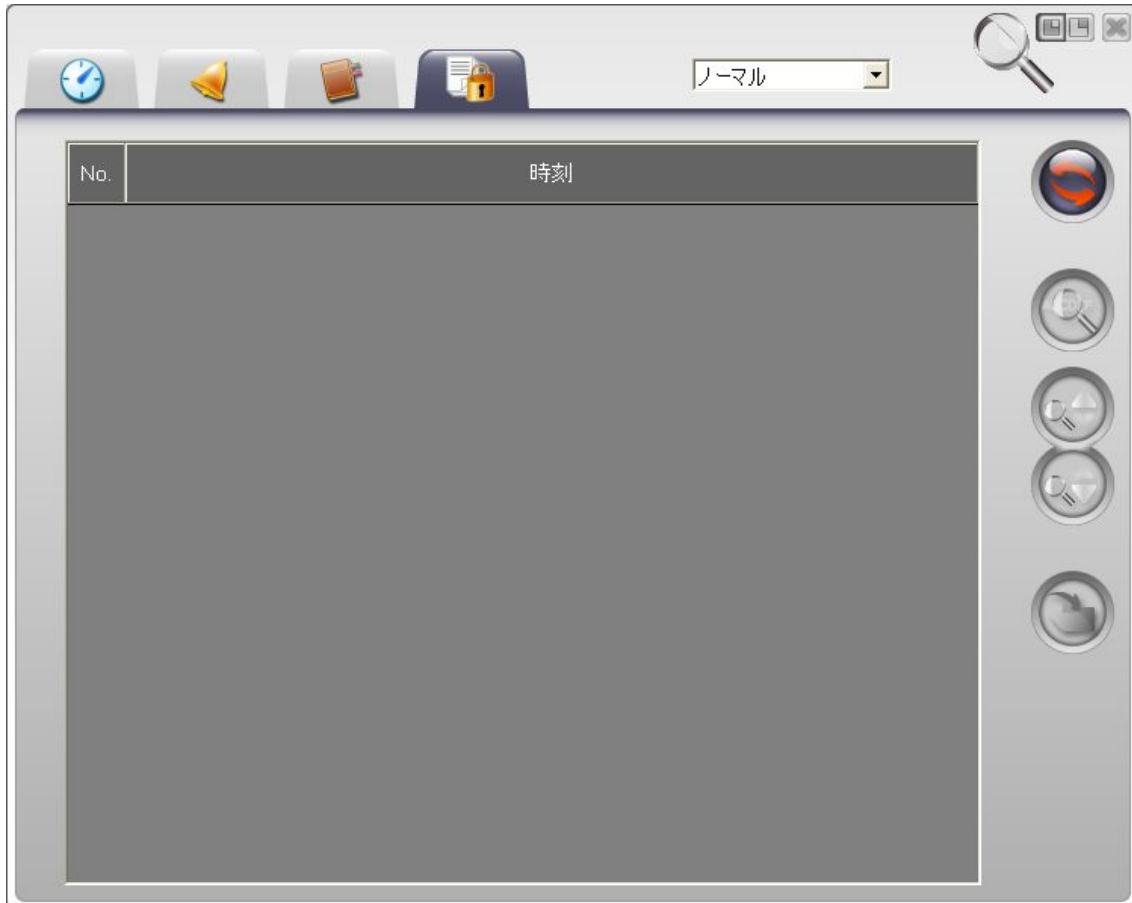
右最下段のゴミ箱ボタンは個々のブックマークをリストから消去するためのボタンです。ブックマークはユーザーから明示的に削除されるまで次回起動時も記憶しています。しかし実際のレコーダーには該当する画像が記録リピートによる上書きなどで既に存在しない場合がありますのでご注意ください。



#### 4.2.4 保護データ検索タブ

データ保護機能付きのレコーダーで保護された区間を検索再生するためにこのタブを使用します。

更新ボタン  をクリックしてレコーダーから保護データリストを取得し、所望の記録区間を指定して検索実行ボタンをクリックして下さい。



### 4.3 レコーダーユーザー設定パネル

レコーダーには通信用ユーザーを登録して使用することができます。それぞれのユーザーには各種権利を割り当てることができ、ユーザーごとの役割に応じた使い分けが可能です。デフォルトでは全権ユーザーである root/admin000 (利用者 ID/パスワードで表します。以下同様) とライブ画像取得のみ可能な guest/guest が登録されています。

レコーダーのユーザー設定を編集するにはレコーダーユーザー設定パネルを使って行います。

レコーダーユーザー設定パネルを表示させるには MainView/SingleView にあるレコーダー設定ボタン



をクリックし、[レコーダーユーザー設定]を選択します。

この操作を行う間は該当レコーダーとのライブ・記録画像再生は自動的に停止します。

利用者ID	パスワード	ライブ	再生	オールカメラ	制御	設定	排他権
root	*****	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
guest	*****	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

権限には下記のような種類があり、それぞれ以下のような役割となっています。

- ・ **ライブ権** :ライブ画像を取得できる権限です。全ユーザーが必ず持ちます。
- ・ **再生権** :レコーダーの記録画像を取得できる権限です。検索・ファイル単位ダウンロード (ブロック単位でのダウンロードには再生権とオールカメラ権限保有が必要)
- ・ **オールカメラ** :レコーダーの表示カメラ設定に応じたカメラ表示制限を取り扱います。
- ・ **パスワード変更** :Web 画面でパスワードをユーザーが変更できる権限です。
- ・ **制御権** :レコーダー/ PTZ カメラを操作できる権限です。電源入切や録画開始停止など。
- ・ **設定権** :レコーダーのメニュー設定を変更できる権限です。
- ・ **排他権** :他の通信用ユーザーを排除して、通信リソースを占有できる権限です。

排他権ユーザーは緊急用に使用するための特別なユーザーです。Web での接続はもちろん、通常の通信接続では使用しない排他権ユーザーを設定し、そのユーザーでレコーダーにログインすると、その時点でレコーダーと通信しているすべてのユーザー（Webユーザーを含む）の通信が強制的に切断されます。また、排他権ユーザーが接続している間は、新たな通信ユーザーが接続することはできません。

また、レコーダーの通信ポートにはユーザーの持つ権限によって接続可否や総ポート数などの制約がありますので、ログインしたユーザーがある権限を持っていても必ずしもその権限を行使できるとは限りません。レコーダーの接続ポートと権限行使の関係は以下の通りです。（レコーダーモデルにより存在しないポートもあります）

- ・ Super User ポート : 全ての権限を行使できます。
- ・ Play User ポート : 記録画像取得及びライブ画像取得が可能です。
- ・ Live User ポート : ライブ画像取得のみ可能です。

User Access ポートというものもレコーダーにありますが、これは接続準備用のポートであり、実効的な権限は何も行使できません。

全権限を持ったユーザーであっても、既に誰か他の設定権所有ユーザーや制御権所有ユーザーが先に Super User ポートに接続していれば、後からのユーザーは Super User ポートを獲得することができず、次善の Play User ポートや Live User ポートに接続することになります。この場合、所有権限に関わらず、その接続ポートに応じた権限までしか行使することができません。

#### **お知らせ**

- ・ 同名ユーザーの追加はできません。
- ・ 設定権を持ったユーザーが一人もない時には登録も保存もできません。
- ・ ユーザーの削除は利用者 ID だけを消して登録（もしくは保存）して下さい。
- ・ 排他権ユーザーはデフォルトでは存在しません。
- ・ レコーダー毎にユーザーに付与できる権限は異なりますが、レコーダーから読み込んだユーザーリストに表示されている権限は設定できます。パスワード変更権や排他権など該当モデルにのみ存在します。

## 4.4 レコーダーメニュー設定パネル

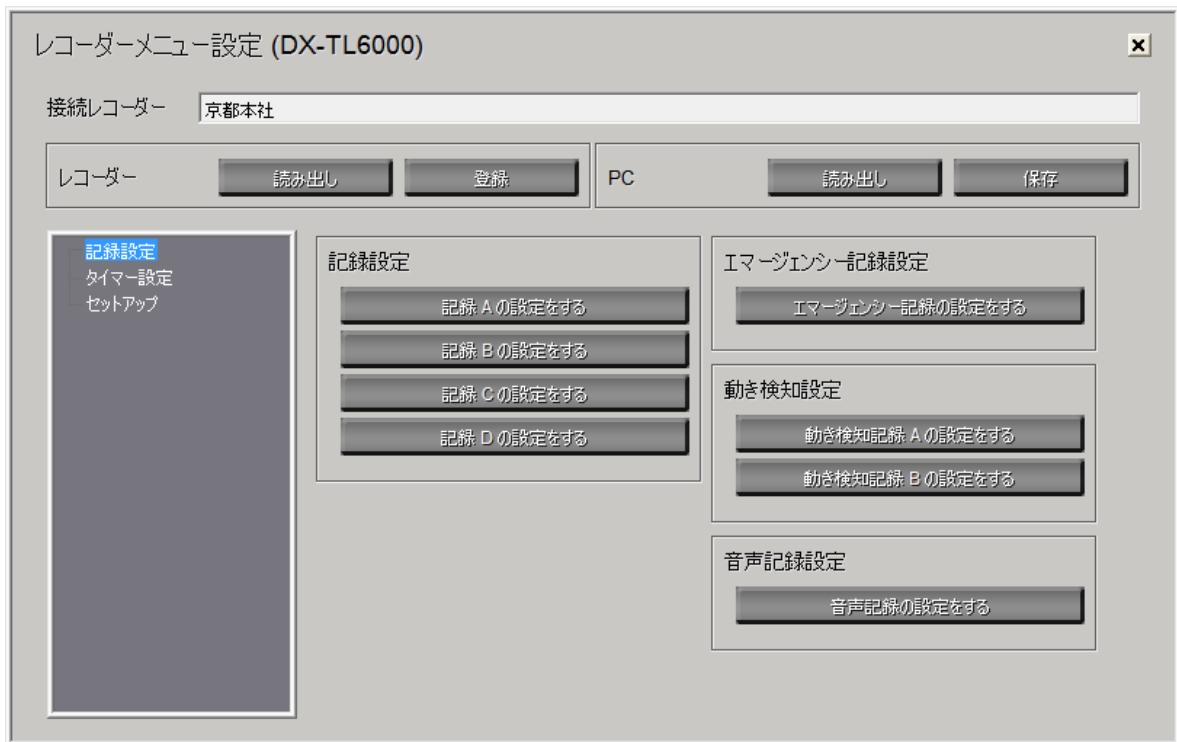
レコーダーのメニュー設定を編集するにはレコーダー設定パネルを使って行います。

レコーダーメニュー設定パネルを表示させるには MainView/SingleView にあるレコーダー設定ボタン



をクリックし、[レコーダーメニュー設定]を選択します。

この操作を行う間は該当レコーダーとのライブ・記録画像再生は自動的に停止します。



### お知らせ

レコーダー本体から USB メモリなどに保存したメニューデータは読み出せません。本ソフトウェアで保存したメニューデータのみ読み込むことができます。



#### 4.4.1 設定ファイルの取得と登録

通信中のレコーダーからメニュー設定データを取得するには[レコーダー]枠の[読み出し]ボタンをクリックします。必要な項目を編集した後、再びレコーダーへメニュー設定データを登録するには[レコーダー]枠の[登録]ボタンをクリックします。登録の時にはレコーダーは安全かつ確実なメニュー設定データの書き込みのため、本ソフトウェアによって一旦電源を落とされる場合があります。またメニュー設定データ書き込み後は場合によっては電源 OFF の状態で停止しますので、必要な場合はレコーダーステータスランプなどから電源 ON や記録開始の措置を執って下さい。

これとは別に、各設定項目画面に所々[今すぐ登録]ボタンが配置されています。これはその表示画面全体、もしくは該当項目での設定項目だけを即座にレコーダへ送信するボタンです。このボタンのメリットは一部のモデルで電源を落とすことなく設定をレコーダーに送信できることですが、反対に、レコーダーがその設定を受け付けられない状態でも実行できてしまいます。(記録中に記録設定を[今すぐ登録]するなど)この場合は送信は無事に完了してもレコーダーへはその設定が反映されているとは限りませんので、必ず再度読み込みを行って、確実に所望の設定になっていることを確認して下さい。

※[今すぐ登録]ボタンはレコーダーの動作状態によって使用できない場合があります。

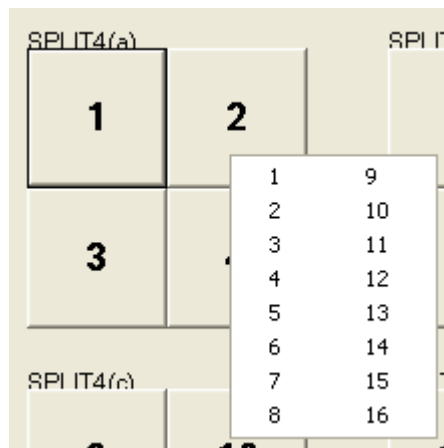
#### 4.4.2 メニュー設定ファイルを編集する

レコーダーのメニュー設定は、メニュー設定パネルを使って編集することができますが、設定項目はレコーダーによって異なります。設定項目については、各レコーダーの取扱説明書をご覧ください。

以下は、PC 特有の操作方法がある設定項目です。

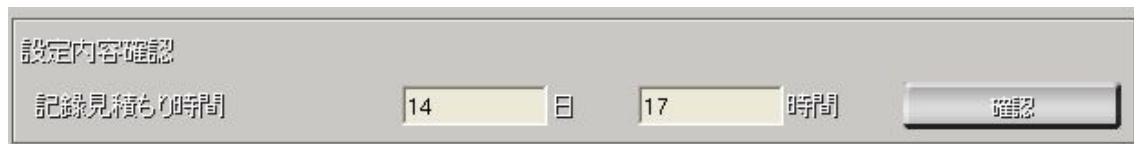
##### 【マルチプレクサ設定】

DX-TL2500 シリーズのマルチプレクサ設定では、マウスを左クリックすると、カメラ ch 番号がひとつずつ増えていきます。マウスを右クリックすると、下図のようにカメラ ch 番号の選択肢が表示されます。

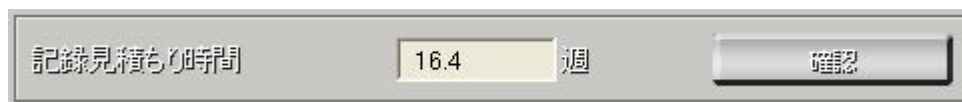


### 【記録見積もり時間】

DX-TL5500/DX-TL5000 シリーズでは、記録設定画面で記録見積もり時間を確認することができます。希望の記録設定を設定し、画面下の[確認]ボタンをクリックしてください。設定された記録設定をレコーダーに送信し、計算結果を確認することができます。この操作では、送信された記録設定項目はレコーダーの設定項目に反映されませんので、ご注意ください。また、レコーダーに接続していない場合には、この機能は使用できません。



タイマー設定の確認画面でも記録見積もり時間(週)をレコーダーに問い合わせることができます。この機能に対応していないレコーダーでは結果が正しく表示されないことがあります。また、レコーダーに接続していない場合には、この機能は使用できません。



### 【動き検知範囲設定】

以下の操作で動き検知ドットの設定を行うことができます。

DX-TL5500/DX-TL5000 シリーズでは

- ・ マウスの右クリックで OFF
- ・ マウスの左クリックで ON
- ・ マウスの右ボタン矩形ドラッグで矩形範囲内を OFF
- ・ マウスの左ボタン矩形ドラッグで矩形範囲内を ON

DX-TL2500 シリーズでは

- ・ マウスの左クリックでドットを一つずつ ON/OFF 切り替え
- ・ マウスの右ボタン矩形ドラッグで矩形範囲内を ON
- ・ Shift+マウスの右ボタン矩形ドラッグで矩形範囲内を OFF



### お知らせ

レコーダー側で全角文字を禁止されている項目 (POP サーバー、ユーザーID、SMTP サーバー等) で全角文字の登録操作を行ってしまうと、その後の関連動作に異常をきたす場合があります。このような場合は、最大文字数分の半角数字 (0 など) をいったん登録すると、レコーダーの状態を正しく修正することができます。

## 4.5 レコーダー制御パネル


レコーダーをネットワーク越しに操作するにはレコーダー制御パネルを使って行います。

レコーダー制御パネルを表示させるには MainView/SingleView の下部にあるレコーダー制御ボタン



をクリックします。




操作結果はランプ点灯などでおおよそ表現しますが、全ての操作が本体の操作ボタンと同様にできるものではありませんので、必要な操作の結果をレコーダー本体のインジケータ点灯などであらかじめご確認の上でご使用ください。また、このパネルの操作とは関係なくレコーダー本体側の状態が変化した場合などは、手動で情報更新を行わないと、インジケータなどの表示状態がレコーダーと一致しないことやレコーダーの動作状態によっては操作が効かない場合があります。現時点での情報を手動で取得するには、左下の更新ボタン  をクリックしてください。また、シーケンシャル表示などのモード表示も、レコーダー本体の点滅表示には同期しません。その他のインジケータ類も通信経由では正しく表示されない場合があるため、ご使用にあたってはレコーダー本体でも動作状態を確認してください。

コピー2のLEDはレコーダーのモデルによっては操作可能なボタンになっています。このボタンのみ操作はダブルクリックで行います。レコーダー制御パネルからコピー2 デバイスを制御する場合は、HDD など応答の速いデバイスでご使用ください。DVD ドライブなど、モード遷移に 1 秒以上必要な応答速度の遅いデバイスを使用した場合は、コピー2 の起動時・終了時などの状態を的確に把握しにくくなります。必ず希望の動作になることを事前に確認の上、ご使用ください。

なお、この操作を行う間は該当レコーダーとのライブ・記録画像再生は自動的に停止します。

## 4.6 システムログリストパネル

MainView/SingleView でシステムログリストボタン  をクリックすると、システムログリストパネルが開きます。[読み出し]ボタンをクリックすることでレコーダーからシステムログリストを取得して表示します。

項目欄をクリックすればソートすることができます。


[保存]ボタンをクリックすればテキストファイルでシステムログリストを保存することができます。

この操作を行う間は該当レコーダーとのライブ・記録画像再生は自動的に停止します。



No.	時刻	コード	内容
387	18/01/30 10:55	8012	アラームホールド Off
386	18/01/30 10:54	8011	アラームホールド On
385	18/01/30 10:51	8014	メニュー Off
384	18/01/30 10:51	8004	ノーマル記録停止(本体ボタン)
383	18/01/30 10:51	8003	ノーマル記録開始(本体ボタン)
382	18/01/30 10:28	8013	メニュー ON
381	18/01/30 10:24	8012	アラームホールド Off
380	18/01/30 10:24	8004	ノーマル記録停止(本体ボタン)
379	18/01/30 10:22	5412	映像信号無し(Ch 12)
378	18/01/30 10:22	5408	映像信号無し(Ch 8)
377	18/01/30 10:22	5407	映像信号無し(Ch 7)
376	18/01/30 10:22	5406	映像信号無し(Ch 6)
375	18/01/30 10:22	5405	映像信号無し(Ch 5)
374	18/01/30 10:22	8003	ノーマル記録開始(本体ボタン)
373	18/01/30 10:19	8011	アラームホールド On

## 4.7 オプション設定パネル

MainView でオプション設定ボタン  をクリックすると、オプション設定パネルが開きます。オプション設定パネルでは、最上部のドロップダウンリストから選択しながらいくつかのジャンル別にアプリケーション動作に関わる設定を調整することができます。

### 4.7.1 全般

#### 【全般1】



#### <言語設定>

表示言語を切り替えます。設定反映は次回起動時からです。

#### <コントロール説明>

チェックボックスにチェックを入れるとマウスポインタをボタンの上に移動させるとボタンの説明が表示されます。

#### <情報更新間隔>

MainView でのレコーダーの情報(動作状況や記録区間など)を取得する時間間隔を設定します。デフォルト値より少なく設定する場合はレコーダー及び PC の負荷を異常に高める可能性があるため、十分ご検証の上で設定下さい。

#### <権限設定>

「ユーザー権限」はアプリケーションユーザーごとに機能制限を設定することができます。ユーザーの追加・削除もここでを行います。

「ユーザー制限を行う」ボタンを押すと次回起動時の自動アプリケーションログイン機能を停止させることができます。

#### <画像遷移時の自動ライブ動作>

画面を遷移したときに自動でライブを開始するかどうかの設定ができます。通信帯域が狭い場合など、勝手にライブが始まって欲しくない場合に使用します。

### 【全般 2】



#### <レコーダー切断通知画面>

レコーダーとの通信が中断された時、ポップアップにより切断情報をお知らせするかどうかの設定やポップアップ表示時のサウンドを設定できます。

## 4.7.2 ライブ/再生



### <早送り・巻き戻しのコマ数>

[早送り・巻き戻しのコマ数]のドロップダウンリストから早送り・巻き戻し時のベースコマ数を変更できます。早送り・早戻しのボタンで再生画像を送る際、1度のクリックでこのベースコマ数の分だけコマ飛ばしで進むことになります。早送り・早戻しボタンをもう一度クリックするとベースコマ数x2でのコマ飛ばし、もう一度クリックするとベースコマ数x4、さらにx8、そして再びx1に戻ります。早送り・巻き戻しのコマ数は2～512の範囲で自由に設定できます。ただ、レコーダーのモデルによっては設定したコマ飛ばしに通りにならないものやコマ飛ばしが頭打ちになる事もありますので、記録FPSやch数、PCスペック等により適宜快適な数値に変更してください。なお、大きな数字が必ずしも速くなるものとは限りません。

### <画像処理>

[フィールド表示]のチェックボックスをONにすることにより、画像データの縦方向のライン数を半分の間引いた表示になります。フレーム記録された画像などで動きのある物体のブレが激しい場合にONにします。反対に、動きの少ない画像の場合はOFFにされる方が画質がアップします。この設定は画像を保存する場合や印刷する場合にも適用されます。この処理が有効になるのはMPEG機の記録画像データの場合のみです。

### 4.7.3 カメラウィンドウ

#### 【カメラウィンドウ1】



#### <情報表示設定>

カメラウィンドウ右側にある画面状態(ライブ中や再生中などの動作状況)の表示非表示を切り替えます。この設定は次回起動時から有効になります。

#### <直前再生時間>

ドロップダウンリストで、直前シーン再生ボタンをクリックした時に戻って表示する記録画像の戻り量を設定できます。

#### <区間ダウンロード設定>

カメラウィンドウ上の[区間ダウンロード]ボタンから区間ダウンロード設定パネルが起動されますが、この際の事前入力値を設定しておけます。データマネージャーから起動された区間ダウンロード設定パネルにはこの設定は反映されません。



### <タイトルへの日時表示>

カメラウィンドウ上でライブ映像表示中のレコーダー日時を表示する・しないの設定ができます。  
モデルによってはライブ映像表示中に日時を表示できないものもあります。

### 【カメラウィンドウ2】



### <コントロール表示設定>

カメラウィンドウ右側にあるコントロールボタン類の表示非表示を切り替えます。10 個のコントロールボタンから最大 6 個まで同時に表示させることができます。この設定は次回起動時から有効になります。各コントロールボタンの機能説明は「4.10 カメラウィンドウでの各種操作」をご覧ください。

### <ボイスチャット有効時間>

ドロップダウンリストで、ボイスチャットを開始してから自動的に終了するまでの時間を設定できます。

#### 4.7.4 シーンキャプチャ



##### <フォルダ>

シーンキャプチャ時の画像データ保存先を設定します

##### <ファイル名>

シーンキャプチャ時の画像データ保存ファイル名を設定します

##### <ファイル形式>

シーンキャプチャ時の保存画像データ形式を設定します。

#### お知らせ

- ・ ファイル命名法の設定状況によっては同名データが発生することがあります。上書きの確認などは行われませんので設定には充分ご注意ください。
- ・ カメラタイトルに設定した文字によってはシーンキャプチャのファイル名が欠ける場合があります。

#### 4.7.5 DB（データベース）メンテナンス



##### <イベント保存期間>

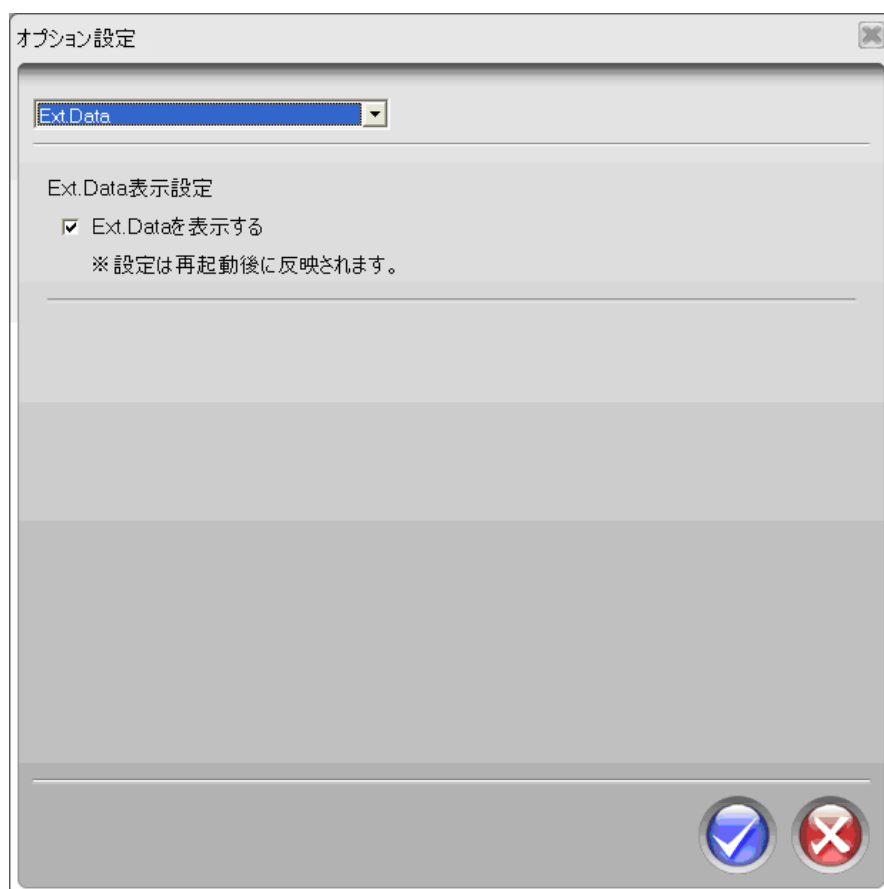
イベントリストのデータベースを何日分 PC に保持するかを設定します。起動時にイベント保存期間外の項目はリストから削除されます。保存期間は 1～999 日までの間で設定をすることができます。イベントリストの保持期間はデフォルトでは無制限になっています。この場合受信したイベントは削除しません。受信したイベント等により HDD がいっぱい書き込めない状況になった場合、新しいイベントが登録・表示されなくなりますので、運用環境に合わせて設定値を指定してお使い下さい。

##### <データベースの復旧・最適化>

データベース(イベントリスト等)のデータが破損した時などに復旧・最適化させることができます。(全ての場合に有効ではありません)

また、データベースが肥大化してディスク容量を圧迫しないように、時々このボタンで最適化を実行してください。


## 4.7.6 Ext.Data



### <Ext.Data 表示設定>

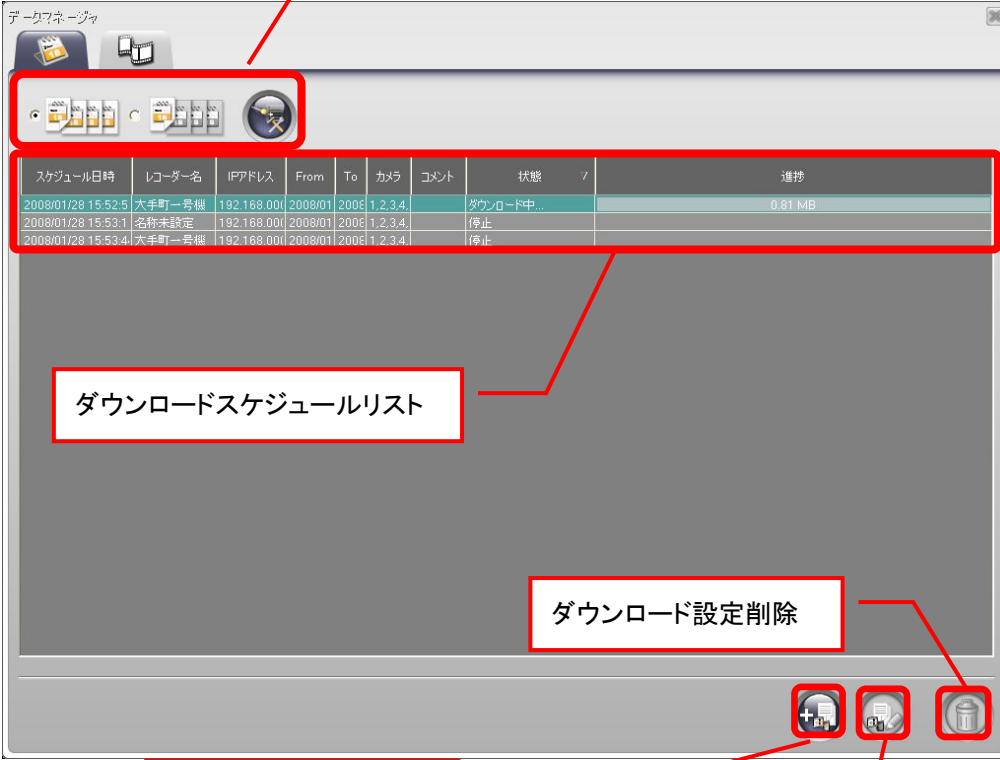
Ext.Data 記録ができるレコーダーにおいて、画像表示部に Ext.Data を一緒に表示するかどうかを選択します。

## 4.8 データマネージャー

MainView/SingleViewにある  ボタンをクリックすることでデータマネージャーを起動できます。データマネージャーではレコーダーの記録画像をダウンロードして一元的に保管したり、そのデータを外部にエクスポートする機能を備えています。また、画像ダウンロードに関してはスケジューリングによる自動運転が可能であり、夜中のうちに時間のかかるダウンロードを済ませておくなどの使い方ができます。

データマネージャーは画像ダウンロードのスケジュールを管理するスケジュールリストタブと、ダウンロード後のデータを管理するデータリストタブの二つの画面を持っています。

### 4.8.1 スケジュールリストタブ



フィルタリング

スケジュール日時	レコーダー名	IPアドレス	From	To	カメラ	コメント	状態	進捗
2008/01/28 15:52:5	大手町一号楼	192.168.0.01	2008/01	2008	1.2.3.4.		ダウンロード中...	0.81 MB
2008/01/28 15:53:1	名称未設定	192.168.0.01	2008/01	2008	1.2.3.4.		停止	
2008/01/28 15:53:4	大手町一号楼	192.168.0.01	2008/01	2008	1.2.3.4.		停止	

ダウンロードスケジュールリスト

ダウンロード設定削除

スケジュール追加  
4.8.3 項参照

ダウンロード設定編集

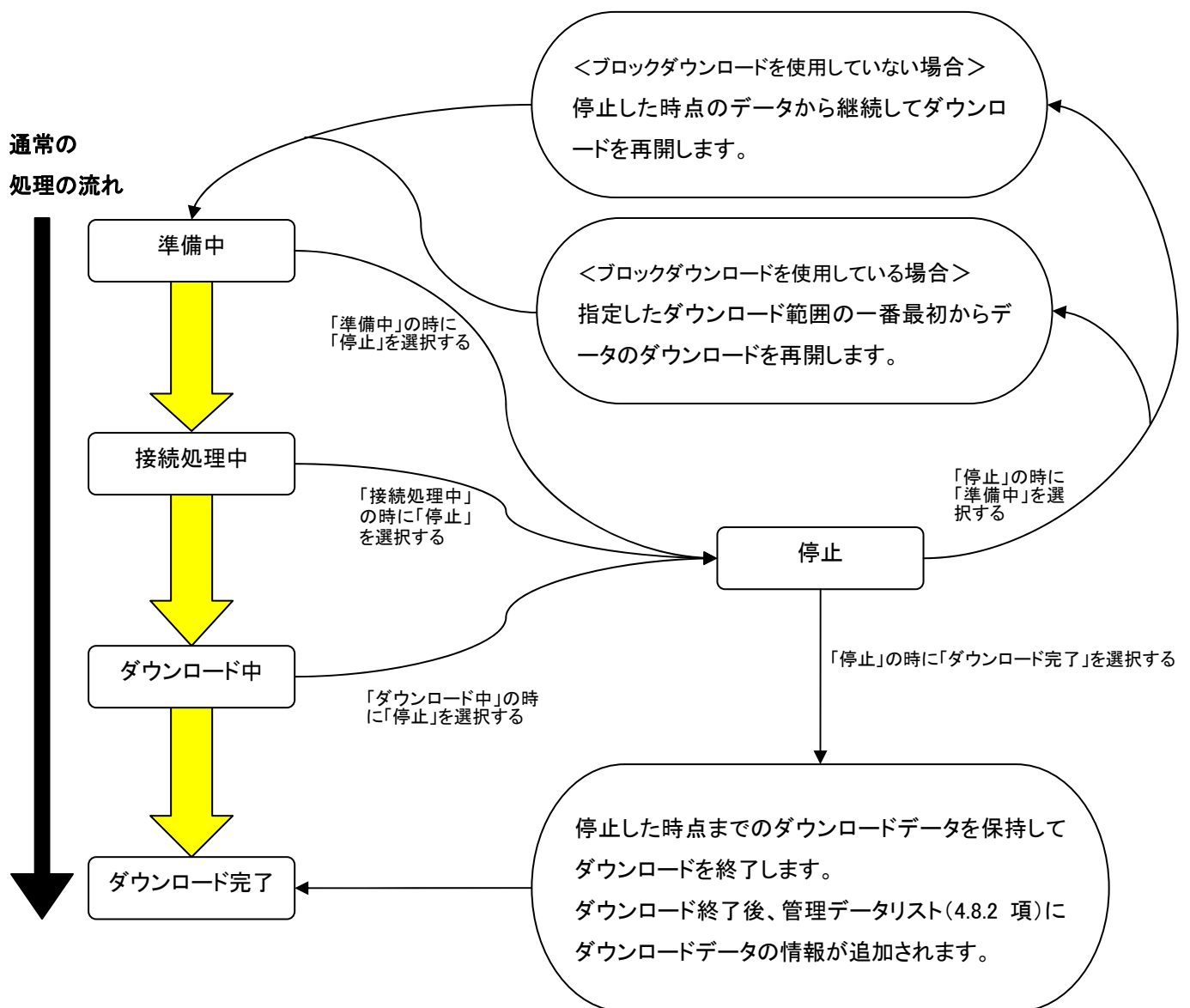
・ ダウンロードスケジュールリスト

ダウンロードスケジュールリストにある、<状態>の欄をクリックするとドロップダウンボタンが表示されます。ドロップダウンボタンを開くと下図のように変更可能な状態の選択肢が表示されます。

To	カメラ	コメント	状態
2010	1,2,3,4		停止

準備中  
 停止  
 ダウンロード完了

条件や状態によって変更可能な状態の選択肢や動作は下図のように変化します。



## お知らせ

通信帯域が狭い場合は、ダウンロードスケジュールリストにある<状態>のドロップダウンボタンが表示されるまでに時間が掛かることがあります。また、場合によっては数分間必要なことがあります。

### 4.8.2 データリストタブ




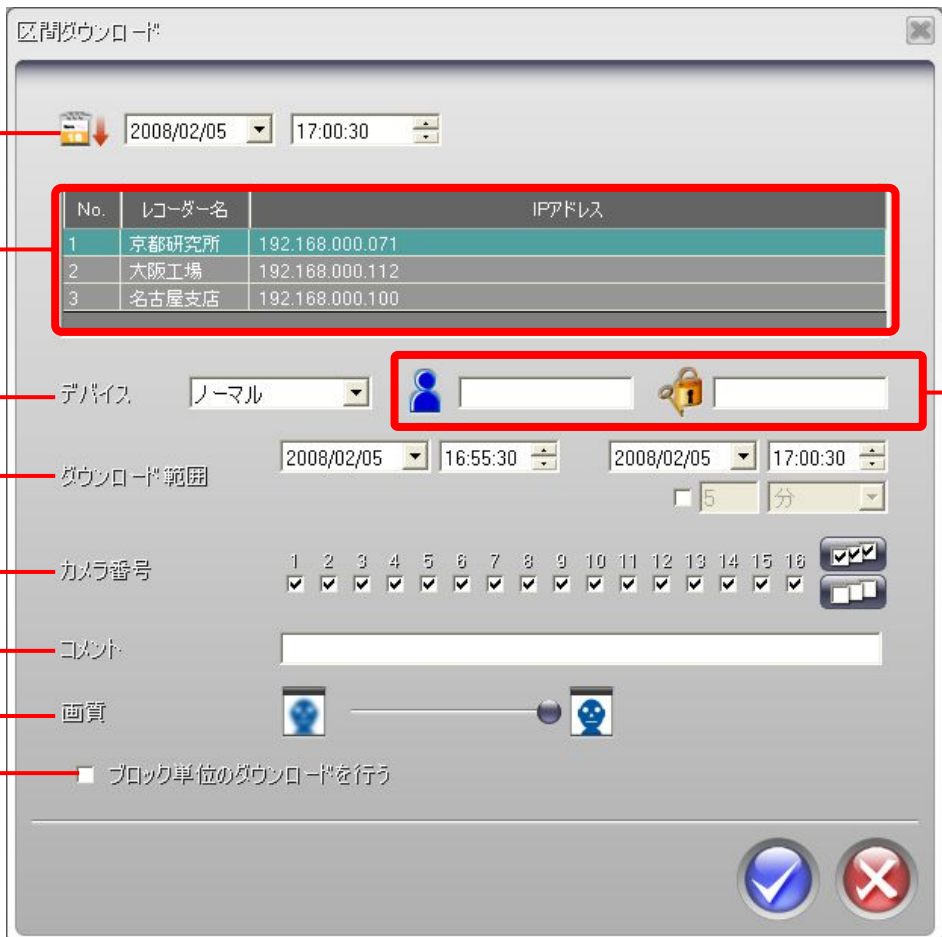
## お知らせ

・ダウンロードしたデータ量が大きい場合いくつかのフォルダに分かれて保存されます。その場合、データマネージャの管理データリストにはフォルダ毎に1行のリストが表示されます。ただし、複数のフォルダにまたがって保存されているデータをインポートした場合には1行のリストでインポートしたすべてのデータが含まれます。

### 4.8.3 区間ダウンロード設定パネル

データマネージャーのスケジュールリスト画面(4.8.1 項)下部にあるスケジュール追加(編集)ボタンをクリックすると、下図のような区間ダウンロードパネルが現れます。

下記①～⑨の項目設定後、 ボタンをクリックすることでスケジュールリストに登録されます。



No.	レコーダー名	IPアドレス
1	京都研究所	192.168.000.071
2	大阪工場	192.168.000.112
3	名古屋支店	192.168.000.100

- ① ダウンロード実行開始時間
- ② レコーダー選択
- ③ デバイス(エリア)選択
- ④ レコーダーへのログインユーザー(及びパスワード)
- ⑤ ダウンロード範囲(開始/終了時間)設定
- ⑥ ダウンロードカメラ選択
- ⑦ データ保管時のコメント入力
- ⑧ 画質選択(モデルによっては画質を選択できるものがあります)
- ⑨ ブロック単位のダウンロードON/OFF(モデルによってはダウンロード方式の切り替ができるものがあります)



ブロック単位のダウンロードをONにすると、ダウンロード指定した時刻の記録データが重なって存在している場合やアラームリストが正常に構成されていない場合にも正常にダウンロードが出来ます。また、高速で高画質(フレーム記録画像)な画像がダウンロードできる場合があります。

ただし、ブロック単位のダウンロードON/OFFの切り替ができるモデルで下記状態の場合はブロック単位のダウンロードをOFFに設定してください。

- ・ 通信動作が不安定な場合やネットワーク帯域に不安がある場合
- ・ レコーダーのSuperUserポート(4.3 項参照)が既に使用されている場合
- ・ 画質を変更したい場合

#### **お知らせ**

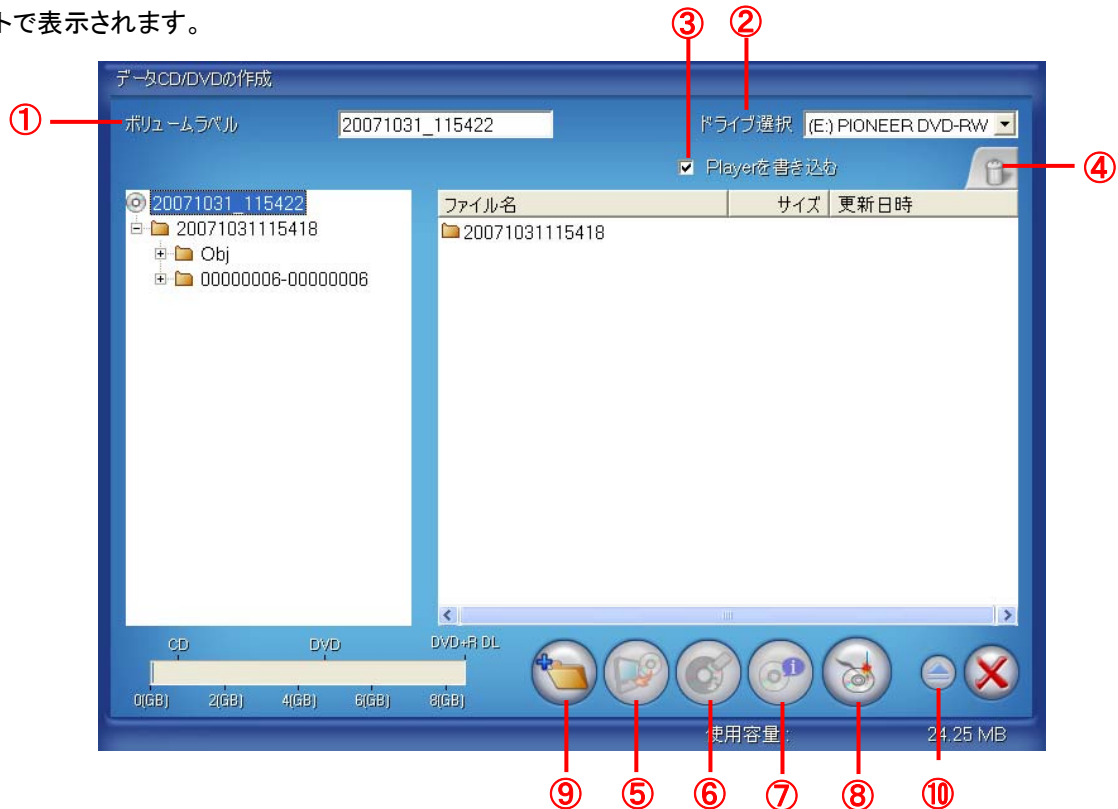
- ・ 区間ダウンロードは、通信状態によってはコマ抜け、中断、失敗が発生することがありますので、バックアップ用途には適しません。大量のデータを長時間にわたってレコーダーからダウンロードする場合は、レコーダー本体のコピー機能を使用されることをおすすめします。
- ・ ブロック単位のダウンロードをOFFにした場合、音声はダウンロードされません。音声をダウンロードする場合はブロック単位のダウンロードをONにしてください。
- ・ デジタルレコーダーのモデルによってはコピー1、リストア、コピー1 デバイスデータの消去、メニューの保存と読み出し、ピクチャーコピー等の機能と区間ダウンロード機能を同時に使用できない場合があります。

#### 4.8.4 データ CD/DVD の作成

本機能はデータマネージャーでダウンロードしたデータをメディアへ書き込む簡易機能になります。

データマネージャーのデータリストタブで管理しているコピーデータを選択し、CD/DVD 書き込みボタンをクリックすると下図のようなパネルが開きます。

選択されたコピーデータはひとつのフォルダに入ります。Player を同梱するときはこのフォルダの中に書き込まれます。書き込もうとしているメディア内にデータが既に存在する場合はそれらがロードされたレイアウトで表示されます。



- ① ボリュームラベル : ディスクのボリュームラベルです。デフォルトで書き込み時の PC 日付時刻が入ります。
- ② ドライブ選択 : 使用可能な書き込みドライブが複数ある場合に選択します。
- ③ Player を書き込む : コピーデータに簡易ビューワを同梱するかどうかを選択します。  
(本機能は TL6000 系などの MPEG 機にはありません)
- ④ ファイル・フォルダ削除 : ファイルやフォルダを選択してゴミ箱のアイコンをクリックすると、そのデータがレイアウトから削除されます。
- ⑤ メディアロード : 追記時に書き込み済みのデータをレイアウトに追加します。
- ⑥ メディア消去 : 書き換え可能メディアを消去します。
- ⑦ 情報 : ドライブ及びメディアの情報を表示します。
- ⑧ 書き込み : 書き込みを開始します。実行前に詳細設定画面が出ますが、特に何も触らずとも書き込みを開始できます。

- ⑨ データ追加 :メディアへ書き込むデータを追加します。
- ⑩ 取り出し :メディアを取り出します。

### **お知らせ**

「ドライブ選択」で選択できるドライブかつ、他のライティングソフトで正常に書き込みできるものでも、本ソフトウェア上では正常に動作できない場合があります。対応しているドライブ情報は販売店にお問い合わせください。なお、多くのBlu-rayドライブには対応していますが、Blu-ray ディスクへの書き込みは正式サポートしておりません。

本機能で書き込みできるメディアは新品もしくは本ソフトウェアでのみ書き込み履歴のある追記メディアのみです。

メディアへ書き込みを行なった場合書き込みエラーが出る場合があります。その場合はダウンロードしたデータをエクスポートしてパソコン付属のライティングソフトでの書き込みをお試しください。

ASCII 以外の文字は使用できません

メディアに書き込んだデータを再生する際には、メディアからデスクトップなどへコピーしてご使用頂くことをお勧めします。

本機能は上記動作を保証するものではありません。

## 4.9 グルーピング

各カメラ画像を好みの位置に配置(5.3.4 項、5.3.5 項)した後、その画面レイアウトを「グルーピング」として登録することができます。グルーピング登録しておけば、次回起動時にもすぐにそのレイアウトを簡単に呼び出して表示させる事が可能です。また、グルーピングされた画面配置を自動で順回させるパトロール機能(4.9.3 項)というものもあります。

「グルーピング」として保存される情報にはカメラレイアウトの他、該当レコーダーへのログインユーザーとそのパスワードが含まれます。このためグルーピングの登録情報は本ソフトウェアのログインユーザー(3.1 項 ログイン画面)毎に保管されます。(同じPC上であっても、他のユーザーのグルーピングは利用できません。)

また、登録されたグルーピングは SingleView/MultiView にあるユーザーグルーピングボタンに割り当てておくこともできます。

### 4.9.1 グルーピングリストへの登録

SingleView/MultiView のグルーピング設定ボタン  をクリックすると「グルーピングリスト」が表示されます。



グルーピングの追加と削除はこのパネルの下側にある追加ボタンと削除ボタンで行います。

追加ボタンをクリックするとグルーピング名を入力するダイアログが表示されます。適当な名称をつけて登録して下さい。現在の画面レイアウトがグルーピングリスト上に追加されます。

#### <起動時グルーピング>

リストの起動時グルーピングの欄にチェックマークを入れると、そのグルーピングを起動時に自動的に呼び出して表示させることができます。

### 4.9.2 登録したグルーピングの呼び出し

グルーピングの呼び出しには下の 3 通りの方法があります。

グルーピングを呼び出すとカメラリストのドロップダウン部分及びカメラリストの表示も同時に変わります。

#### 1. カメラリストからの呼び出し

カメラリスト(3.3.3.項)上部のドロップダウン部分で所望のグルーピングを選択します。



#### 2. F キー(ファンクションキー)からの呼び出し



グルーピングリストの先頭から 12 個はキーボードの F キーに割り当てられています。Ctrl キーを押しながら F キーを押せばグルーピングは切り替わります。F キーの割り当て順はグルーピングリストに登録されている順番です。

#### 3. ユーザーグルーピングボタンからの呼び出し

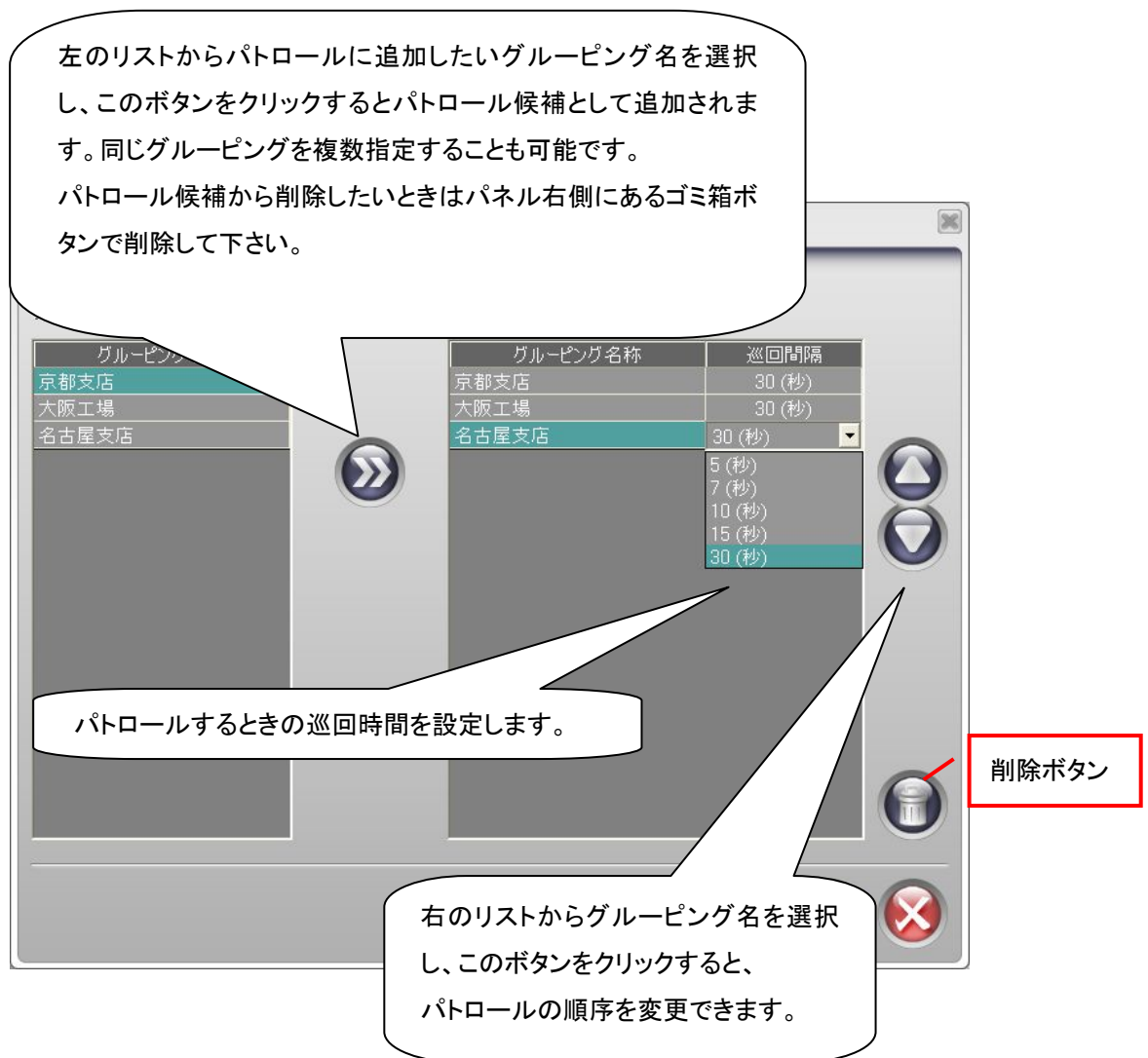
カメラリスト(3.3.3.項)下部の 8 個のボタンはユーザーによってグルーピングを割り当てることができます。割り当て方法の詳細は 4.9.4 項をご覧ください。



#### 4.9.3 記憶させた画面配置でシーケンス表示する<パトロール機能>

カメラリスト下のパトロールボタン  をクリックすると、登録されているグルーピングを一定時間間隔で巡回監視することができます。パトロール監視中はボタンの矢印が回っているようにアニメーションされます。巡回の時間間隔や巡回順、巡回の可否などはパトロールボタンの横にあるパトロール設定ボタン  で変更できます。

左のリストからパトロールに追加したいグルーピング名を選択し、このボタンをクリックするとパトロール候補として追加されます。同じグルーピングを複数指定することも可能です。パトロール候補から削除したいときはパネル右側にあるゴミ箱ボタンで削除して下さい。



グルーピング名	巡回時間
京都支店	30 (秒)
大阪工場	30 (秒)
名古屋支店	30 (秒)

パトロールするときの巡回時間を設定します。

右のリストからグルーピング名を選択し、このボタンをクリックすると、パトロールの順序を変更できます。

削除ボタン

#### お知らせ

性能に余裕のない PC や遅いネットワーク環境で早めの巡回時間を設定してしまうと、ライブ画像が正しく表示される前に次のグルーピングに移行してしまうことがあります。

長時間パトロールでご使用になる場合には画面レイアウトを同一の画面パターンのものでしておいてください。画面パターンの違うレイアウトを組み合わせると、長時間パトロールを行うと、PC の動作全体が緩慢になることがあります。このような場合は PC の再起動が必要です。

#### 4.9.4 ユーザーグルーピングボタンへのグルーピング割り当て

カメラリスト下にある数字が書かれた 8 個のボタンは、ユーザーによってグルーピングを割り当てることができます。

グルーピング未割り当てのユーザーグルーピングボタンをクリックすると「グルーピング選択」ダイアログが開きます。ドロップダウンリストに登録済みのグルーピングが表示されますので、そのボタンに割り当てたいグルーピングを選択して下さい。



設定後にボタン上にマウスカースルを置くと割り当てられているグルーピングがツリーで表示されます。そのままクリックすれば画面レイアウトが該当するグルーピングのものに切り替わります。



既にグルーピングを割り当て済みのボタンに、違うグルーピングを割り当てたい時にはボタンを右クリックします。再びグルーピング選択ダイアログが出てグルーピングを選択することができます。


#### お知らせ


グルーピング設定は SingleView-MultiView 間で共有しません、それぞれの画面で別個に登録する必要があります。

## 4.10 カメラウィンドウでの各種操作

### 4.10.1 カメラウィンドウを見やすくする<注視ウィンドウ機能>


カメラウィンドウが小さく、PCの画面端の方に表示されているときなど、ワンクリックで見やすい位置に持ってくるすることができます。

 ボタンをクリックすると、そのカメラウィンドウが画面中央に表示され、ボタンの色が緑に変わります。注視ウィンドウになっている間はデコードレベルと画質(3.3.2項)が自動的に最高になります。

再び  ボタンをクリックすることで注視ウィンドウ機能は解除され、カメラウィンドウとボタンの色は元の状態に戻ります。

注視ウィンドウボタンはオプション設定のカメラウィンドウ項(4.7.3項)で表示/非表示を選択できます。非表示にすると画面全体の動作応答速度が若干改善されます。


### 4.10.2 表示中の画像をキャプチャする<シーンキャプチャ機能>

監視中のカメラ画像に重要なシーンが表示されている時、カメラウィンドウにある  ボタンをクリックすることでその画像をキャプチャすることができます。

キャプチャされた画像はデフォルトではマイドキュメントの cap\_img フォルダに保存されます。この時の保存先や保存名、保存ファイル形式をオプション設定のシーンキャプチャ項(4.7.4項)から変更することができます。

シーンキャプチャボタンはオプション設定のカメラウィンドウ項(4.7.3項)で表示/非表示を選択できます。非表示にすると画面全体の動作応答速度が若干改善されます。

### 4.10.3 現在より少し前の記録画像を見る<直前シーン再生機能>

ライブ画像監視中に「現在より少し前の画像を見たい」と思うことがあれば、カメラウィンドウの右側にある  ボタンをクリックすることで一定時間前の記録画像を呼び出すことができます。(停止状態で表示されます)

過去に戻る時間はオプション設定のカメラウィンドウ項(4.7.3項)で設定変更できます。デフォルトでは30秒に設定されています。


直前シーン再生ボタンはオプション設定のカメラウィンドウ項(4.7.3項)で表示/非表示を選択できます。非表示にすると画面全体の動作応答速度が若干改善されます。

#### お知らせ

このときのカメラ画像はレコーダーの記録画像ですので、そのタイミングで記録されていない場合には呼び出すことはできません。また、通常記録をしていない場合は、かなり離れた時刻の画像が表示されることもあり得ます。なお、デバイス(エリア)の選択が適切でないと正常に機能しません。



#### 4.10.4 手動でアラーム記録を開始する<NET アラーム記録機能>

ライブ監視中に緊急でアラーム記録を開始したいシーンがある場合など、 ボタンをクリックするとそのカメラのアラーム記録をレコーダー側でスタートさせることができます。

アラーム記録の継続時間はレコーダーのアラーム記録時間設定によります。


NET アラーム記録ボタンはオプション設定のカメラウィンドウ項(4.7.3 項)で表示/非表示を選択できます。非表示にすると画面全体の動作応答速度が若干改善されます。


#### お知らせ

NET アラーム記録ボタンは NET アラーム記録機能に対応したレコーダー (DX-TL5500,DX-TL4500 など) でしか機能しません。

レコーダー本体のアラーム記録が設定されていない場合 NET アラーム記録を開始することはできません。

#### 4.10.5 PTZ カメラをコントロールする< PTZ カメラ制御機能>

カメラウィンドウパネル(3.3.2.項)の PTZ カメラ制御ボタン  をクリックすると PTZ カメラ制御パネルが開きます。各ボタンの動作は下図の通りです。



カメラ名/表示設定

ジョイスティック  
及びプリセットキー

USB ジョイスティックを  
使用する時はチェック  
を入れます

オートパン操作部/  
カメラ調整

ユーザーファンクションボタンです  
高級機のみにあるワイパーやライトなど、オプション機能など  
を割り当てて使用します。詳細は以下の説明をご覧ください

画像フィールド内をドラッグすると、その方向にカメラが回頭します。ドラッグ開始点から遠ざかるにつれてスピードが3段階に変化します

#### <情報表示欄>

上段に接続中のレコーダー名と IP アドレスが表示されます

下段には現在表示中のカメラch番号と登録カメラ名が表示されます。

このドロップダウンリストでカメラを選択することで表示カメラを切り替えることができます。

#### <ジョイスティック>

マウスの左ドラッグでパンとチルトを行います。

右ドラッグして右回し、左回しでズーム操作ができます。

#### <プリセットキー>

マウスの右クリックで現在のカメラ位置をプリセット登録します。

左クリックでプリセットを呼び出します。

#### <オートパン操作部>

オートパンのAB点登録とスピード調整バーです。

#### **お知らせ**

カメラのモデルによっては使用できない機能もあります。

USB ジョイスティックは使用できないものがありますので、あらかじめ十分にテストを行ってください。

この操作を行う間は該当レコーダーとのライブ・記録画像再生は自動的に停止します。

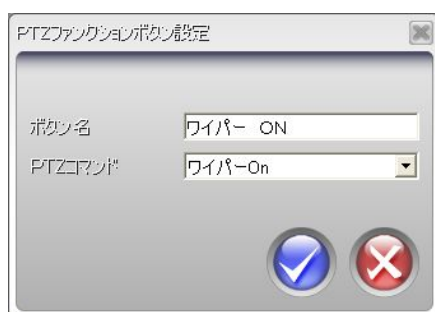
12 個のユーザーファンクションボタンにはワイパーやライトなど、オプション機能を割り当てて使用することができます。

未設定のボタンを左クリックすると下のようなダイアログが開きます。設定後に[OK]ボタンをクリックするとボタン上にボタン名が表示され、次の左クリックから割り当てたコマンドを発行するボタンになります。

ボタン名 : ボタンの上に表示させる文字を入れます。



文字数に制限がありますのでご注意ください。

PTZ コマンド : このボタンをクリックした時に発行するコマンドを選択します。



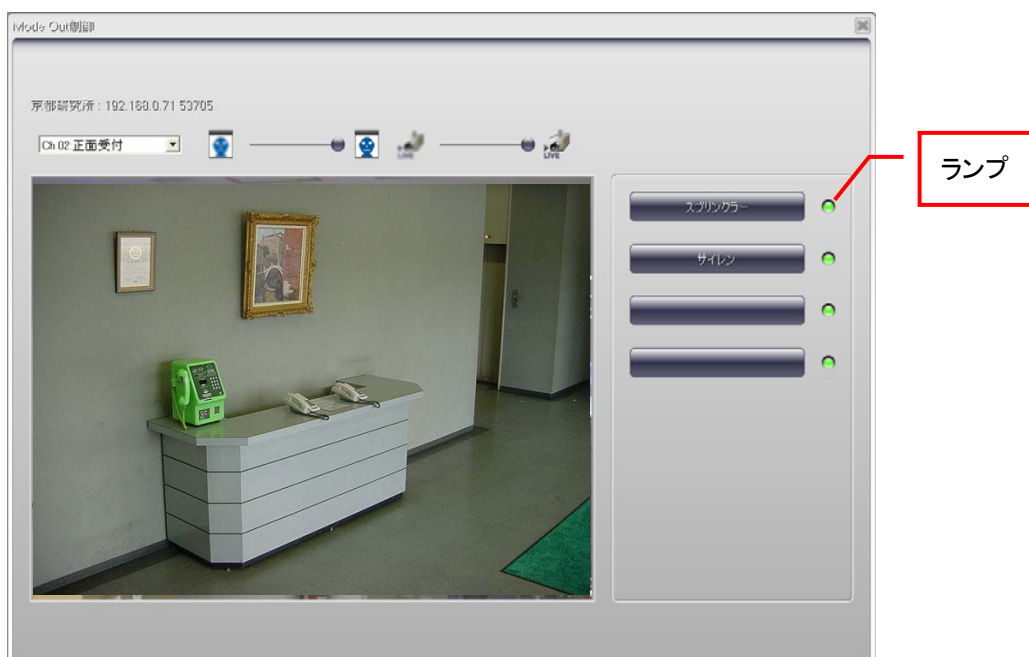
既に割り当てを行ったボタンの登録内容を変更したい場合はボタンを右クリックして下さい。同じように設定用ダイアログが開きます。

#### 4.10.6 外部接続機器を遠隔操作する<MODEOUT 制御機能>

カメラウィンドウパネル(3.3.2 項)の MODEOUT 制御ボタン  または、カメラウィンドウの MODEOUT 制御ボタン  をクリックすると MODEOUT 制御パネルが開きます。各ボタンの動作は下図の通りです。

レコーダー側の MODEOUT 設定を「LAN」にしておけば右側のボタンが有効になります。ボタンをクリックするとレコーダー背面にある MODEOUT 端子の極性を制御できます。


右のランプは MODEOUT 端子の極性によって点灯/消灯します。



ボタンを右クリックすると下のようなダイアログが表示され、ボタンに表示される名称を変更することができます。ボタン名に設定できる文字数には制限がありますのでご注意ください。



#### 4.10.7 プリンタで印刷する

カメラウィンドウの  ボタンをクリックすると下の印刷ウィンドウが開きます。右下にある印刷ボタンを押すとプリンタで印刷ができます。



- [プレビュー].....印刷結果のイメージを表示します。
- [余白].....各テキストボックスに余白を mm 単位で入力します。
- [メモ].....画像の下に Memo を印刷します。
- [部数].....印刷する部数を指定します。ただし、複数部数印刷をサポートしていないプリンタドライバでは無効になります。
- [プリンタの設定]...Windows 標準の[プリンタの設定]ダイアログボックスが開くので、プリンタの選択、用紙や向きなどを設定することができます。なお、Microsoft XPS Document Writer や Adobe PDF などのファイル保存系のものを選択しないようにしてください。

画像の上にレコーダー名・日付・時刻、画像の下にメモ(入力している場合のみ)が印刷されます。

#### 4.10.8 簡単区間ダウンロード

レコーダーの記録画像を表示しているとき、カメラ区間ダウンロードボタンをクリックすると区間ダウンロードパネルが表示されます。

区間ダウンロード

2008/06/20 10:15:52

No.	レコーダー名	IPアドレス
1	6000	192.168.000.054

デバイス ノーマル

利用者 ID

パスワード

ダウンロード範囲 2008/06/19 18:30:00 ~ 2008/06/19 18:35:00

5 分

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

ダウンロード範囲の開始日時

ダウンロード範囲の終了日時

コメント

画質 カメラ番号

ブロック単位のダウンロードを行う

OK Cancel

この方法で起動された場合の区間ダウンロードパネルでは以下のように条件入力の手間が削減されています。

- デバイス : ボタンをクリックした時点で選択されていたデバイス(エリア)がセットされています。

- 利用者 ID : オプション設定パネルのカメラウィンドウ1 (4.7.3 項) で設定された利用者 ID がセットされています。
- パスワード : オプション設定パネルのカメラウィンドウ1 (4.7.3 項) で設定されたパスワードがセットされています。
- ダウンロード範囲の開始日時 : ボタンをクリックした時点で表示されていた記録画像の日時がセットされています。
- ダウンロード範囲の終了日時 : オプション設定パネルのカメラウィンドウ1 (4.7.3 項) で設定された時間分、開始日時にプラスされてセットされています。
- カメラ番号 : ボタンをクリックしたカメラウィンドウのものだけが選択されています。

区間ダウンロードパネルの詳細な使い方は、4.8.3 項データマネージャーも併せてご覧下さい。

#### 4.10.9 ボイスチャット

一部のモデルでは、PC のマイクで集音した音声をネットワーク経由でレコーダーに送信することができます。レコーダーで受信された音声は背面の AUDIO OUT 端子から出力されます。

カメラウィンドウの[ボイスチャット]ボタンをクリックするとアイコンの表示が変わり、ボイスチャット状態(音声送信状態)になります。ボイスチャット中はレコーダー側の再生操作などに制約が出る場合があります。またボイスチャット機能は所定の時間で自動的に OFF になります。この時間はオプション設定(「4.7.3 カメラウィンドウ」参照)で変更することができます。

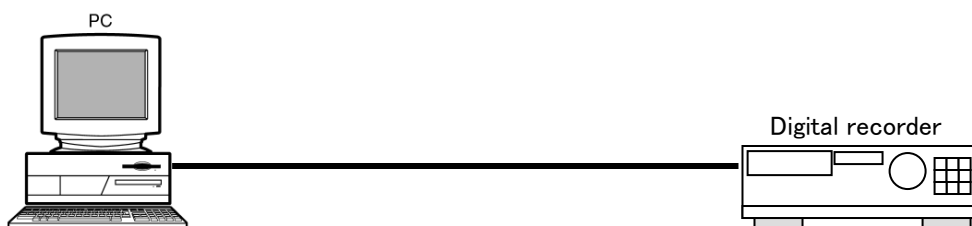
## 5. 通信で使用する

この章では本ソフトウェアの通信機能について、使い方の面から解説していきます。初めて使用される方でも、この章を前から順番に読んでいくことで一通りの通信機能を使えるようになります。

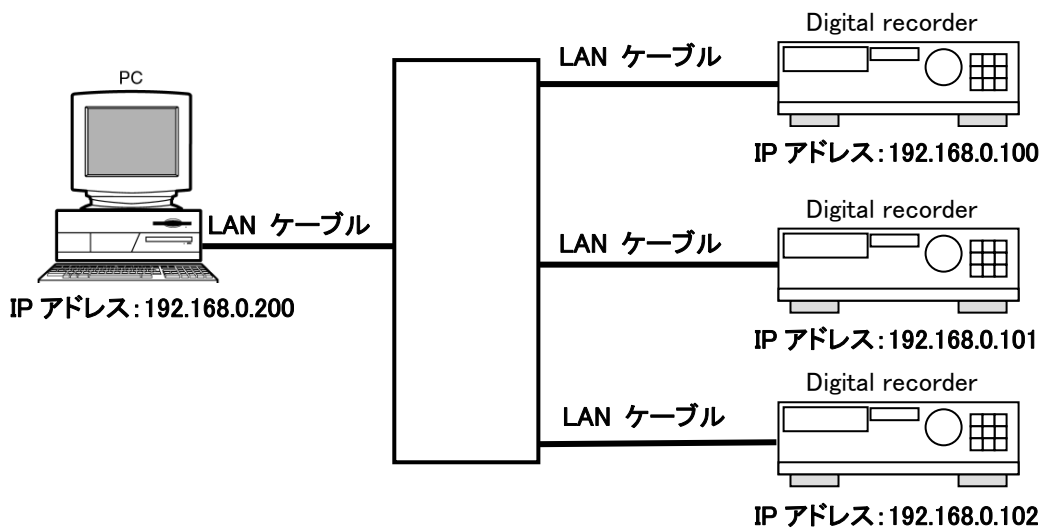
### 5.1 ハードウェアの接続

通信環境として通常の TCP/IP 通信が可能な環境を用意してください。最も単純な構成は本ソフトウェアのインストールされた PC とレコーダーを LAN のクロスケーブルで接続するものです。また複数台のレコーダーとの接続ではスイッチング HUB を利用した LAN 構成があります。ADSL ルータなどによる静的 NAPT 環境に複数台のレコーダーを接続して稼働させることも可能です。以下に簡単な接続例を列挙します。

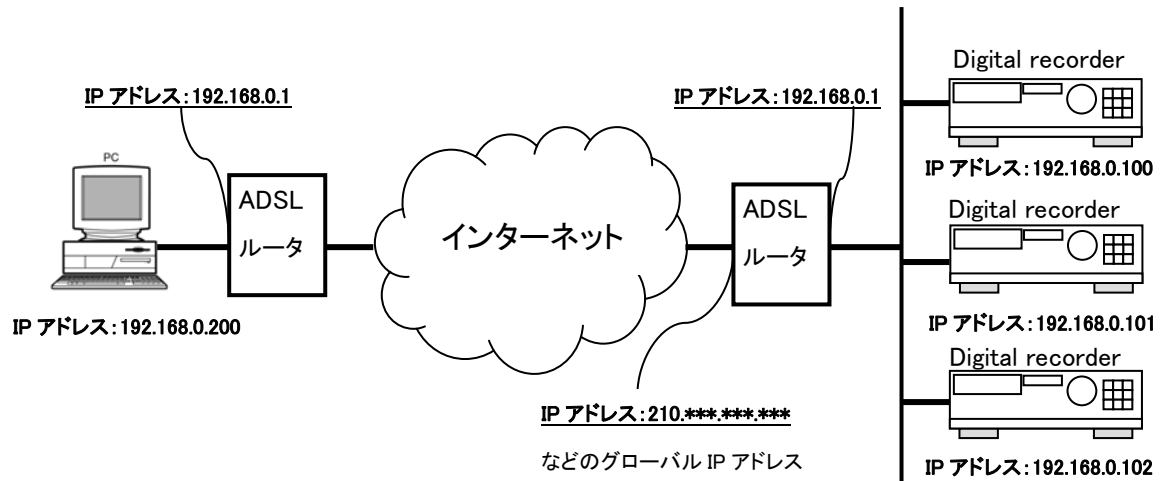
#### 5.1.1 1対1でクロスケーブルを使用する例 (LAN)



#### 5.1.2 1対多でスイッチング HUB を使用する例 (LAN)



### 5.1.3 1対多でADSLルータを使用する例（インターネット経由）



## 5.2 レコーダーとPCを通信できるように設定する

レコーダーとPCが通信できるように両者を設定します。ここでは最も一般的な例として5.1.2.項の接続を取り上げます。

### 5.2.1 レコーダーのIPアドレスの設定

レコーダーとPCが通信できるためにはネットワークアドレスが同一である必要があります。ネットワークアドレスとは簡単にはIPアドレスの前方からある部分までの範囲で表されており、その範囲がどこまであるかはサブネットマスクの値で決まります。

IP アドレス : 192.168.0.100

サブネットマスク : 255.255.255.0

このような場合、IPアドレスの前方から「192.168.0.0」までがネットワークアドレスとして認識されます。残りの「100」はホストアドレスと呼ばれ、そのネットワーク内での個々の端末を表す数字となります。複数のレコーダーとPCをひとつのネットワークアドレス内で使用する場合、ホストアドレスが重複しないように決める必要があります。ここでは以下のようにレコーダーのIPアドレスを設定します。

レコーダーA : 192.168.0.100 (サブネットマスク 255.255.255.0)

レコーダーB : 192.168.0.101 (サブネットマスク 255.255.255.0)

レコーダーC : 192.168.0.102 (サブネットマスク 255.255.255.0)

レコーダーIPアドレスの設定操作方法については各レコーダーの取扱説明書をご覧ください。



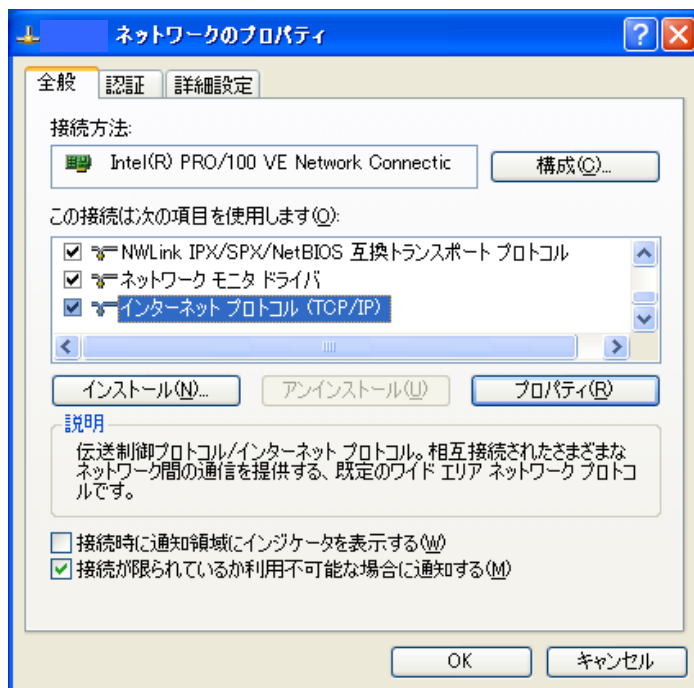
### 5.2.2 レコーダーのポート番号の設定

レコーダーと本ソフトウェアが通信するために、レコーダーの通信受付ポート番号を設定する必要があります。DX-TL5000 系ではこの通信受付ポートは「USER ACCESS」ポートとして通信設定メニューの中に項目が設けられています。「USER ACCESS」ポートの番号はデフォルトでは 53705 などになっていますが、通常はこの設定を変更する必要はありません。ADSL ルータなどの NAPT 環境でポート番号を仕分ける必要がある場合などに変更するようにして下さい。モデルによりポート番号の設定は異なりますので、ご使用の機器の通信設定をご確認ください。

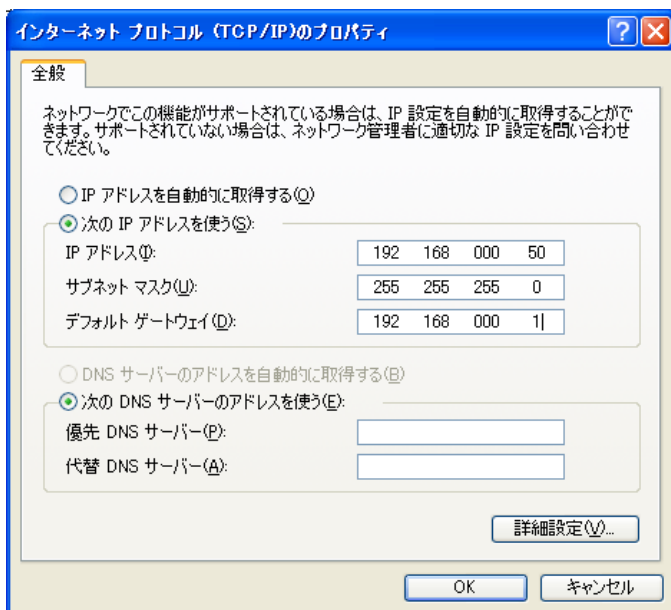
### 5.2.3 PC の IP アドレスの設定

PC の IP アドレスは OS の種類によって設定の手順が違います。ここでは Windows XP の場合の IP アドレス設定方法を説明します。

「コントロールパネル」から「ネットワーク接続」を開き使用するネットワークのプロパティ画面を開きます。「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を選択しプロパティ画面を開きます。



PC の IP アドレスを設定します。



設定例

5.2.1項にあるとおり、PC の IP アドレスもレコーダーと同じネットワークアドレスである必要があります。このことに注意して PC の IP アドレスを決定して下さい。

#### 5.2.4 ping コマンドによる通信可否の確認

ここまで設定が済んだら、実際に通信が出来るか ping コマンドで確認しましょう。ping コマンドはネットワーク端末同士が基礎的な通信ができる状態にあるかどうかを確認するためのコマンドで、Windows には標準で装備されています。

なお、5.1.3 項のような ADSL ルータを介した NAPT 環境での接続の場合、ほとんどの ADSL ルータでは特別な設定を施さない限りインターネット側からの ping コマンドには応答しませんのでご注意下さい。

##### <ping テストの方法>

スタートメニューの「アクセサリ」の中に「コマンドプロンプト」があります。これを起動し、画面で

```
>ping 192.168.0.100
```

と入力します。(数字部分の頭にはスペースを入れ、数字部分には接続確認したいレコーダーの IP アドレスを入力します。)

正しく接続されている場合には下記のようなメッセージが表示されます。

```
Pinging 192.168.1.100 with 32 bytes of data:  
Reply from 192.168.0.100: bytes=32 time<10ms TTL=255  
Reply from 192.168.0.100: bytes=32 time<10ms TTL=255  
Reply from 192.168.0.100: bytes=32 time<10ms TTL=255  
Reply from 192.168.0.100: bytes=32 time<10ms TTL=255
```

また、下記のようにタイムアウトが表示される場合には正しくLAN接続されていません。

物理的接続から見直しを行って下さい。

```
Pinging 192.168.0.100 with 32 bytes of data:  
Request timed out.  
Request timed out.  
Request timed out.  
Request timed out.
```

特に下記のようになる時はレコーダーと PC のネットワークアドレスが一致していないか、PC 側デフォルトゲートウェイの設定が間違っています。設定の見直しを行って下さい。

```
Pinging 192.168.0.100 with 32 bytes of data:  
Destination host unreachable.  
Destination host unreachable.  
Destination host unreachable.  
Destination host unreachable.
```

### 5.3 レコーダー登録をしてLIVEを見る

物理的な接続とレコーダー、PC の設定が完了したら、接続したいレコーダーを本ソフトウェアに登録します。登録のためには接続したいレコーダーの IP アドレス、USER ACCESS ポート番号、型名などの情報が必要です。

#### 5.3.1 レコーダーを登録する

MainView のレコーダーボタンをクリックすると下のようなメニューが表示されます。ここから[レコーダー登録]を選択してクリックするとさらに下にあるようなダイアログが表示されます。※印部分が設定必須の項目です。登録が完了するとメインウィンドウのレコーダーリストにそのレコーダーが追加されます。

The screenshot shows a registration dialog box with the following fields and callouts:

- レコーダー登録...** (Recorders menu item)
- レコーダーの型名** (Recorder model name): DX-TL4500. Callout: ※登録するレコーダーの型名を選択します。この部分を正しく設定しないと接続できない場合があります。
- レコーダー名** (Recorder name): 鎌倉出張所. Callout: 登録するレコーダーの名称を入力します。そのレコーダーを識別しやすい名称を付けましょう
- IPアドレス** (IP address): 192.168.0.100. Callout: ※登録するレコーダーのIPアドレスを入力して下さい。
- ポート番号** (Port number): 53705. Callout: ※登録するレコーダーの「USER ACCESS」ポート番号に合わせて下さい。この部分が正しく設定されていないと接続できません。
- カメラ名** (Camera name) table:

使用	Ch	カメラ名
<input checked="" type="checkbox"/>	1	
<input checked="" type="checkbox"/>	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	3	
<input checked="" type="checkbox"/>	4	

Callout: 登録するにはこのボタンをクリックして下さい
- ポートフォワードを使用する** (Use port forwarding): . Callout: ※登録したいカメラだけにチェックを入れて下さい
- デフォルトユーザー** (Default user): root. Callout: 4.1 項参照
- パスワード** (Password): \*\*\*\*\*. Callout: 登録するカメラの名称を入力します。そのカメラを識別しやすい名称を付けましょう。レコーダー本体にカメラ名が登録されていれば、レコーダーボタン(3.2.2 項)の「カメラインポート」で一気に入ポートすることも可能です。

### 5.3.2 任意のレコーダーに通信接続する

任意のレコーダーに接続するには、MainView のレコーダーリスト(3.2.6 項)から接続したいレコーダーを選択し、[接続チェックボックス]にチェックマークを入れます。

No.	レコーダー名	接続	IPアドレス
1	京都本社	<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.1.1
2	東京支店	<input checked="" type="checkbox"/>	192.168.1.2
3	横浜支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.3
4	静岡支店	<input type="checkbox"/>	192.168.1.4

「レコーダーログイン」ダイアログ(下図)が表示されますので、そのレコーダーに登録されている利用者ID/パスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。



レコーダーログイン

利用者ID: root

パスワード: \*\*\*\*\*

レコーダーにはデフォルトで root/admin000 と guest/guest の2ユーザーが登録されています。root ユーザーはレコーダーに関して通信でのほぼ全ての権限を持っています。guest ユーザーはライブ画像取得ができるだけのユーザーです。

登録ユーザーの追加・変更・削除などの管理とその権限については 4.3 項を参照して下さい。また、4.1 項のデフォルトユーザーを設定している場合、利用者ID /パスワードの入力操作は省略され自動的に接続が行われます。

レコーダーに接続が完了したらMainViewのレコーダーステータスランプ(3.2.6 項)がレコーダーの動作状態に合わせて点灯します。

### 5.3.3 SingleView (MultiView) に画面を変更する

MainView の SingleView 遷移ボタンをクリックして SingleView もしくは MultiView 画面へ移動します。SingleViewに遷移すると自動的に4画面のライブ画像の更新が始まります。(前回起動時の最終画面配置が記憶されていますので毎回4画面で起動するとは限りません)



### 5.3.4 画面レイアウトを変更する



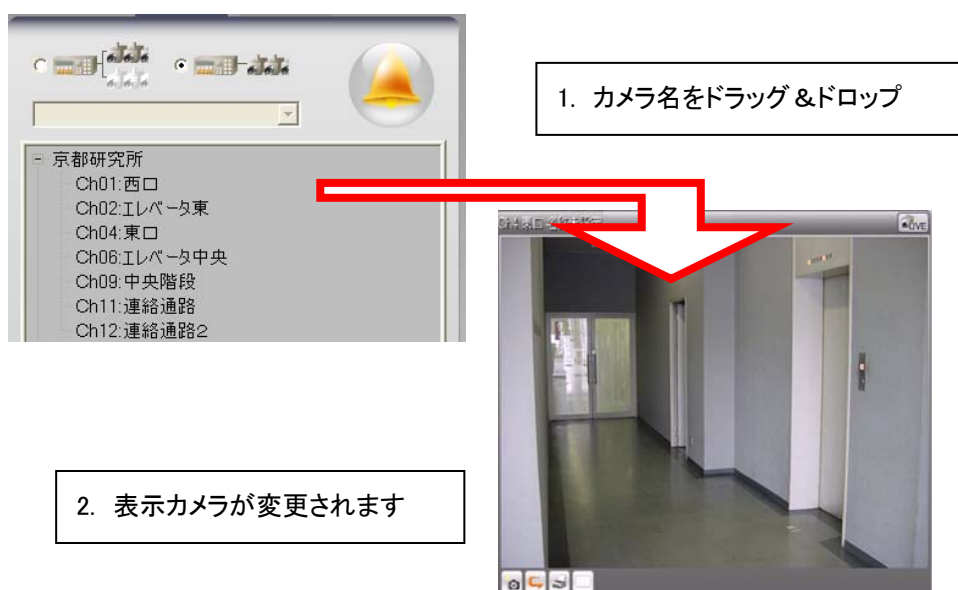
ユーザーグルーピングボタンの横にあるおすすめレイアウトボタン(3.3.4 項)をクリックすると基本レイアウトのアイコンが現れますので、所望のレイアウトをクリックして選択して下さい。画面のレイアウトが切り替わります。これらのボタンは画面レイアウトを変更するものです。

レイアウトアイコンの図柄と実際の画面とが完全に一致しないものがあります。また、MultiView ではレイアウトのアイコンパターンがもう一列増えることがあります。

### 5.3.5 表示しているカメラを変更する

個々のカメラウィンドウに表示されているカメラ画像を変更するには、画面右側のカメラリストから所望のカメラをドラッグし、表示カメラを変更したいカメラウィンドウにドロップするだけです。表示中カメラ同士の表示位置入れ替えはもちろん、カメラリストの表示モードを[全表示]にして操作すれば、非表示になっているカメラ(グレー文字)も新たに表示させることができます。

この時、ドロップされたウィンドウがライブ中ならライブ、記録画像再生中なら記録画像再生として動作を継続します。



表示画像の画質調整、スピード調整はカメラウィンドウパネル(3.3.2 項)から行います。全ての表示カメラを一斉に調整したいときは 3.3.5 項のコントロール群を使います。

#### お知らせ

DX-TL2500 シリーズなどでは、記録再生画像送付時の画質はその画像が記録された時の画質となり、変更することはできません。また、DX-TL5000 シリーズでも、記録時の画質設定が低い場合は、それ以上の画質に調整することはできません。

画像更改速度スライダーでは画質に関係なく画像更改速度を調整することができます。この操作は、1枚ごとの画像取得に少しずつ間隔をあける処理になり、使用通信帯域の制限やレコーダー負荷の低減に効果があります。

レコーダーの通信動作が不安定な場合やネットワーク帯域に不安がある場合は、画像更改速度を落とした運用をお試しください。ご使用の PC の性能が十分でないときも、画像更改速度を落としての運用をお試しください。DX-TL6000 などの MPEG 機では上記調整はできません。

### 5.3.6 その他の方法でのライブ開始

以上で行った方法の他に、MainView でライブを見たいレコーダーの行をダブルクリックする方法でダイレクトに SingleView に遷移してライブ監視をスタートすることができます。



## 5.4 ライブ監視中にできること

ライブ監視中には主に以下のような機能を使って、ライブ監視をより有効なものにすることができます。

- ・ シーンキャプチャ(4.10.2 項)
- ・ 直前シーン再生(4.10.3 項)
- ・ NET アラーム記録(4.10.4 項)
- ・ PTZ カメラ制御(4.10.5 項)
- ・ MODEOUT 制御(4.10.6 項)
- ・ プリントアウト(4.10.7 項)
- ・ ライブ音声(5.4.1 項)
- ・ ボイスチャット機能(4.10.9 項)

### 5.4.1 ライブ音声を聞く

一部のモデルではライブ音声を通信経由で聞くことができます。

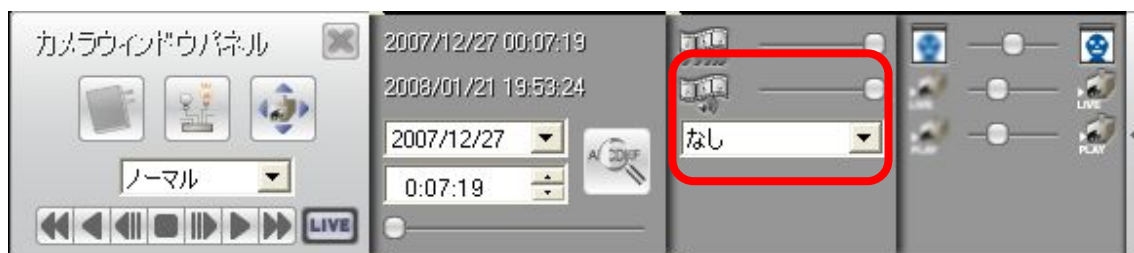
SingleView では画像表示エリア右下のドロップダウンメニューから聞きたい音声chを選択して下さい。

“Live-\*ch”と表示されるものを選択するとライブ音声になります。“Playback-\*ch”は記録音声用です。

ドロップダウンの横にあるスライダーは音声データのバッファ量を決めるものです。短く設定するほど画像と音声のずれは少なくなりますが、良好な通信環境と軽負荷なレコーダー状況を必要とします。ご使用の環境に合わせて調整して下さい。



MultiView ではこれらのコントロールはカメラウィンドウパネル内に入っています。右側に展開して 3 枚目のパネルに同様の音声コントロールが備えられています。



### **お知らせ**

レコーダーに帯域制御を設定している場合や通信帯域が十分に確保できない場合、およびレコーダー本体の記録・コピー・動き検知動作で内部処理が重い状況では、クリアなライブ音声を取得できない場合があります。また、PC 自体の処理能力によってもライブ音声に影響を及ぼすことがあります。このようなときは、接続レコーダー数を減らす、画像更改速度を遅くする(3.3.5 項)、要求画質を落とす(3.3.5 項)などをして通信帯域を確保してください。PC 自体の処理能力に問題がある場合には、デコードレベルを下げてください(3.3.2 項)。

## 5.5 レコーダーの記録画像から見たいものを探す

レコーダーに記録された画像データは膨大な量になりますが、いくつかの方法でこれらの中から必要なものを探し出すことができます。

- ・ 時刻検索(4.2.1 項)  
日付と時刻から所望の画像を探し出す方法です。通信経由での検索の場合、うまくヒットしない可能性があります。(記録データがあまりに膨大な時など)
- ・ アラームリスト検索(4.2.2 項)  
アラームとして記録された画像であれば、レコーダーが管理しているアラームリストを利用して検索を行うことができます。
- ・ 保護データ検索(4.2.4 項)  
DX-TL5000 以降のモデルではデータ保護機能を搭載したものが 있습니다。この機能で保護された区間の記録データを探し出します。
- ・ ブックマーク検索(4.2.3 項)  
レコーダー側ではなく、本ソフトウェア側にブックマークを登録しておき、そのリストから検索を行います。

### 5.5.1 ブックマークを登録する

レコーダーの記録画像を検索し、再生しているときに「この画像は重要」「この画像は後でもう一度チェックしたい」などの画像があった場合、その画像をブックマークに登録することができます。

その記録画像が画面に表示された状態のままカメラウィンドウパネルのブックマークボタンをクリックすると、どのカメラのいつの画像であるかを本ソフトウェアにブックマークとして記憶させることができます。このブックマークはレコーダー毎に別々に保存され、本ソフトウェアを一旦閉じても記憶しています。



こうして登録したブックマークは 4.2.3 項のブックマーク検索で検索することができます。


### 5.5.2 再生音声を聞く

一部のモデルでは記録音声を通信経由で聞くことができます。

操作方法は「5.4.1 ライブ音声を聞く」をご覧ください。

## 5.6 レコーダーから取得した画像をPCに保存する/印刷する

<保存するには>

カメラウィンドウの横に出ているシーンキャプチャボタン  をクリックします。その時に表示されている画像が PC 上に保存されます。

保存先のフォルダはデフォルトで MyDocuments 内の cap\_img フォルダになります。画像データの保存名はデフォルトで「L\_レコーダー名\_カメラ番号\_日時\_二桁の番号.bmp」です。(最初の「L」は再生画の時には「P」になります)レコーダー名とカメラ番号はそれぞれ「表示無し」「カメラ名」などに置き換え可能です。また保存する画像フォーマットも Bitmap と JPEG から選択可能です。これらの設定は MainView からオプション設定を開き、シーンキャプチャ項(4.7.4 項)で設定変更できます。

<印刷するには>

カメラウィンドウの横に出ている印刷ボタン  をクリックします。その時に表示されている画像がプリンタに印刷されます。

印刷された画像には、ライブ画像ならその時の PC 時刻、記録画像なら記録されたレコーダー時刻と一緒に印刷されます。また、レコーダー名やカメラ Ch、カメラ名、印刷時に入力したメモなども一緒に印刷されます。

余白調整やその他設定に関する詳細は 4.10.7 項をご覧ください。

## 5.7 画像データを外部に持ち出せる形にする

レコーダーに記録された画像を取り出し、外部に持ち出せる形にするには次の二通りの方法があります。

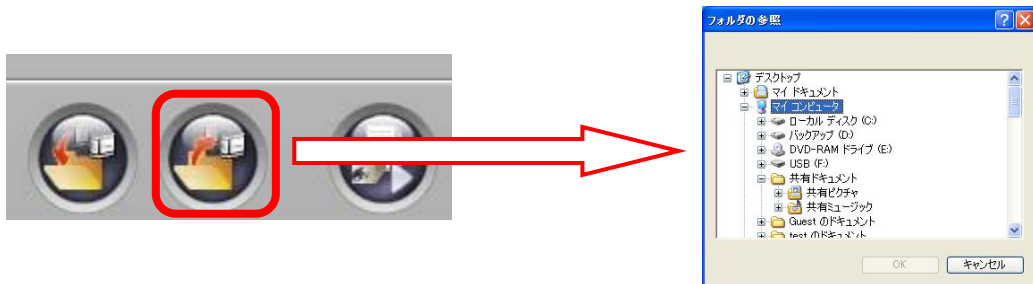
1. シーンキャプチャで1枚の画像データとして保存する(4.10.2 項)
2. 区間ダウンロードした連続画像データをエクスポートする

他にも、データマネージャー管理の画像データを専用ビューワで再生し、これを Bitmap や JPEG で保存したり、AVIに変換して保存することもできます。これらの方法については 6.3.6 項を参照下さい。ここではデータをエクスポートする操作を説明します。

### <データマネージャー管理下のコピーデータをエクスポートする>

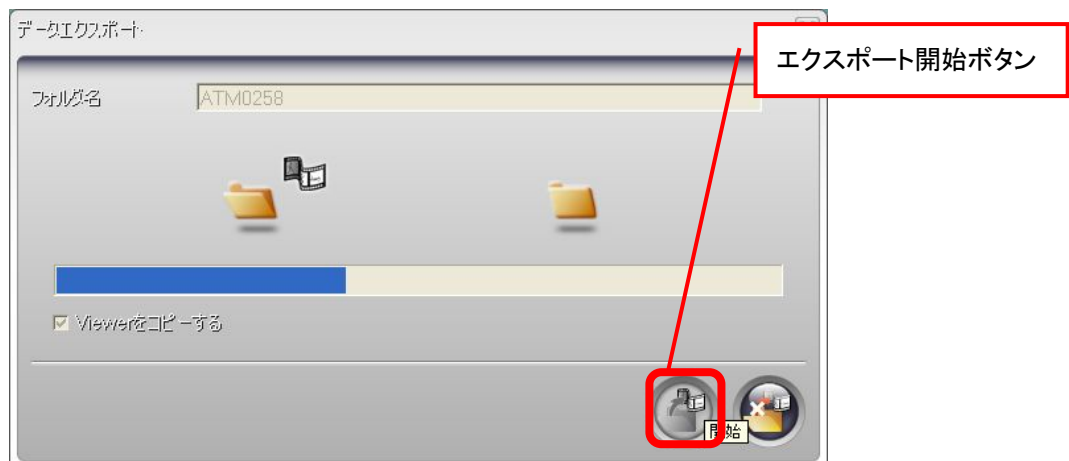
データマネージャーは区間ダウンロードした連続画像データを独自の方法で管理しています。これを一般に持ち運べる形にするにはデータエクスポート機能を使います。

データマネージャーのデータリストタブでエクスポートしたいデータをリストから選択し、データエクスポートボタンをクリックします。



フォルダ選択のダイアログが開きますので、エクスポート先のフォルダを指定します。

フォルダを指定するとデータエクスポートパネルが開きますので、保存フォルダ名を入力します。下の「Viewer をコピーする」にチェックマークを付けると、このフォルダ内にデータビューワソフトを添付することができます。モデルによっては Viewer をコピーする機能は使用できません。「エクスポート開始」ボタンでエクスポートが始まります。



## 5.8 レコーダーイベントの IP 発報を受信する

レコーダーからの IP 発報を利用してイベントの発生を PC 上で知ることができます。また、そのイベントをリスト表示で確認し、必要があれば該当する時刻の記録画像検索を行うことができます。

この機能を利用するためにはレコーダー側で IP 発報を行うように設定する必要があります。本ソフトウェア側では特に設定しなくとも受信・表示ができますが、不要な発報項目に関しては表示を除外するような設定にすることも可能です。

### 5.8.1 レコーダーの IP 発報設定を行う

IP 発報が可能なレコーダーはそのための設定メニューを通信設定の一部として行うことができるようになっています。主に設定が必要な項目は以下の通りです。

- ・ 発報先 PC の IP アドレス……主なレコーダーでは数件の発報先を設定できます
- ・ 発報先 PC の受信ポート……どうしても必要なとき以外はデフォルト値での使用を推奨します。この値を変更するときは受信側 PC の受信ポート設定(次項参照)も変更する必要があります。
- ・ 発報項目……レコーダーのモデルによって項目の仕分け、項目数が違います。詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。販売店にお問い合わせ下さい。
- ・ リトライ間隔……リトライを行うまでの時間間隔を設定します。

レコーダーのモデルによってはその他の設定項目を持つ場合もありますが、基本的に設定を行う必要があるのは発報先 IP アドレスと発報項目の二点だけです。また、ネットワークが違う場合にはデフォルトゲートウェイの設定なども併せて行って下さい。

### 5.8.2 IP 発報受信のフィルタ設定、警報音設定を行う

本ソフトウェアをインストールすると、IP 発報をいつでも受信できるようにタスクトレイ内に受信モジュール（データマネージャー）が常駐します。受信モジュールのアイコンは下図のようなものです。



タスクトレイのアイコンを右クリックし、メニューから「AlarmNotifySetting」を選択クリックすると受信に関する設定パネルを開くことができます。この際、ユーザー名、パスワードを要求されますので、本ソフトウェアへのアプリログインユーザー（「3.1 ログイン画面」参照）で使用するものを入力してください。「Exit」を選択すると受信モジュールは終了し、発報を受信してもその内容表示やリスト登録を行わなくなります。再びタスクトレイに常駐させたいときには、いったん本ソフトウェアを起動し、MainView もしくは SingleView にあるデータマネージャーボタンをクリックして下さい。データマネージャーの画面が表示され、同時にタスクトレイでの常駐を開始します。この状態でデータマネージャーを×ボタンで閉じて、タスクトレイでの常駐は解除されないようになっています。



このパネルではレコーダーから発報される内容を細分化し、それぞれの内容に応じてユーザーへの通知（PC 画面表示とアラーム音とメッセージ表示時間）を設定できます。

受信された発報情報のうち、左端のチェックボックスでチェックされたものだけがイベントリストに表示され、PC ユーザーに画面表示(次項参照)で通知します。

右のランプの色はイベントリスト上でそれぞれのイベント内容を見分けるために利用します。クリックすることによって各イベントに適用する色を変更することができます。

一番右にあるドロップダウンリストで受信時に鳴らすアラーム音を選択できます。画面表示のみで良い場合は「----」を選択しておいて下さい。

「アラーム音連続再生」のチェックボックスにチェックを入れると、設定されたアラーム音を手動で停止するまで鳴らし続けることができます。

メッセージ表示時間では本ソフトウェアを起動していない状態でIP発報を受信した際に通知されるメッセージを表示する時間を 10(秒)、1(分)、3(分)、30(分)、1(時間)、1(日)、無制限の7つから選択できます。

一番下にあるポート番号の設定はレコーダーからの発報を受信するためのポート番号設定です。特に問題のない場合はデフォルトのまま使用して下さい。この設定を変更するときはレコーダー側の発報先ポートの設定(前項参照)も併せて変更しなければなりません。

#### **お知らせ**

レコーダーのモデルによっては信号復帰など表示されないイベントがあります。また、使用するPCの負荷により通知メッセージ表示時間に誤差が出る場合があります。

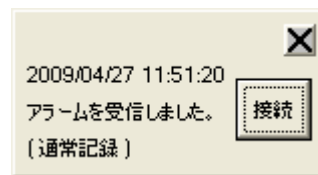


### 5.8.3 IP 発報を受信する

レコーダー上で発報に値するイベントが発生し、本ソフトウェアをインストールされたPCにIP 発報が行われると、PC の使用状態によって 2 種類の違った通知が行われます。

＜本ソフトウェアを起動していないとき＞

タスクトレイの近くに下図のようなボタン付きメッセージが表示されます。



発報を受信した日時と、その内容が記載されています。

すぐにイベントの起きたレコーダーやその記録画像をチェックする必要があるときには、右側の「接続」ボタンをクリックすると本ソフトウェアが起動されます。

なお、このメッセージは設定した表示時間(前述)が過ぎると、画面上から自動的に消去されアラーム音も止まります。また、設定した時間内であっても画面上から消去したい場合は右上の×ボタンをクリックすると閉じることが出来ます。

＜本ソフトウェアを起動しているとき＞

どのビューを使用しているときでも、アラームベルのアイコンが点滅してイベント発報の受信を通知します。ベルのアイコンをクリックすることで点滅を止めることができます。このとき、SingleView/MultiView では同時にカメラリストがイベントリストに切り替わります。

フルスクリーン監視中にもベルのアイコンが表示されてイベント受信を通知します。



#### 5.8.4 発報イベント時の記録画像を確認する

イベントリストの項目行をダブルクリックすることで、そのイベントが発生した時点でのレコーダーの記録画像を呼び出すことができます。実際にはイベント時刻が予めセットされた時刻検索パネルが開きますので、時刻を確認して検索実行ボタンをクリックして下さい。

#### お知らせ

そのイベント時に記録画像がない場合には検索に失敗したり、かなり離れた時刻の画像が表示されることもあり得ますのでご注意ください。

検索は SingleView 画面で実行されます。

#### 5.8.5 イベントリストの表示を調整する（フィルタリング）

イベントリストはフィルタリング機能によって表示を調整することができます。ひとつのレコーダーからのイベントに絞り込んだり、特定の日付のイベントに絞り込むなど、あらゆるフィルタ設定が可能です。フィルタの設定については 3.2.4 項を参照下さい。

設定されたフィルタの ON/OFF はイベントリスト上のラジオボタンで切り替えます。



## 5.9 一括時刻合わせ設定を行う

IP 発報受信のフィルタ設定と同様にタスクトレイ内の常駐モジュールにより登録レコーダーに対し定期的に一括時刻合わせ設定を行なうことができます。



タスクトレイのアイコンを右クリックし、メニューから「Time Synchronize Setting」を選択クリックすると一括時刻合わせに関する設定パネルを開くことができます。起動に関しては 5.8.2 項を参照してください。

### お知らせ

「Exit」を選択すると常駐モジュールは終了し、設定されている一括時刻合わせは実行されなくなります。設定画面呼び出しの際に使用するユーザー名、パスワードは「この設定を変更して良いユーザーかどうか」の判定のみに使用されます。このため表示されるレコーダー登録等は個々のユーザーのものではなく、マスターユーザーのものが表示されることになります。

### <一括時刻合わせ設定パネル>

一括時刻合わせ設定パネルが表示され、ログインユーザーの登録レコーダーがリストアップされます。



[レコーダー選択チェックボックス]

一括時刻合わせ対象とするレコーダーを選択します。

[ユーザー情報]

このチェックボックスにチェックを入れると時刻設定時の接続利用者 ID とパスワード(注 1)を変更することができます。デフォルト接続ユーザーからユーザーを変えたい場合または変えたユーザーで常時時刻合わせを行なう場合はユーザー情報欄のチェックボックスにチェックを入れたままにしてください。このチェックボックスがチェックされていないとデフォルトユーザーが反映されます。一括時刻合わせは設定権が与えられているユーザーでログインする必要があります。

(注1)利用者 ID/パスワードはレコーダーに接続する場合に使用するものです

[運用設定]

一括時刻合わせを行なう日時を指定します。

[時差設定]

一括時刻合わせ時に時差を設定して登録を行ないます。時差は時刻合わせ実行時のパソコン時間を基に計算されて登録されます。

**お知らせ**

レコーダーへのログインユーザーに設定権がない場合や他のユーザーにより該当レコーダの設定権が取得されている場合には時刻の調整に失敗します。

レコーダーへのログインに利用されるユーザー情報はレコーダーを本ソフトウェアに登録した時のデフォルトユーザー設定の内容が反映されます。その後にログインユーザーを変更する必要がある場合は、手動で変更を加えてください。


このパネルを使用して手動操作で時刻を合わせることもできます。レコーダーリストの中から時刻設定したいレコーダーをクリックして青色反転させた状態で下記操作を行ってください。

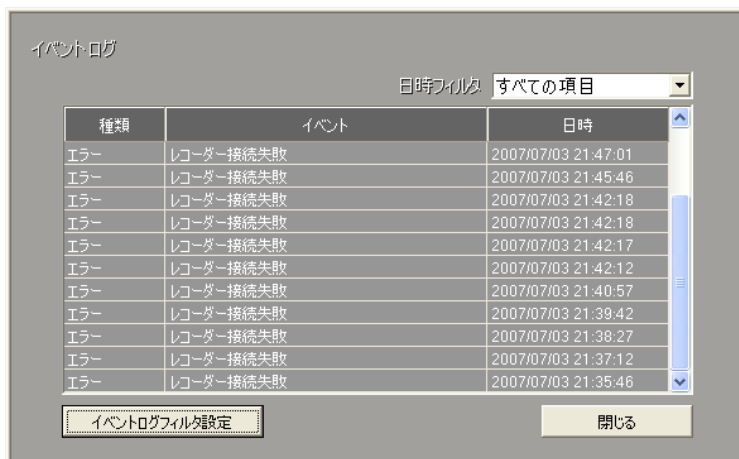
<PC 時刻設定ボタンをクリック>

青色反転で選択されたレコーダーの時計をパソコンの時刻に合わせます。

<マニュアル時刻設定ボタンをクリック>

青色反転で選択されたレコーダーの時計を左のボックスで指定された自由な時刻に合わせられます

一括時刻合わせ動作のログを確認するにはログボタン  をクリックしてください。一括時刻合わせに関するログを確認することができます。



種類	イベント	日時
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:47:01
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:45:46
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:42:18
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:42:18
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:42:17
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:42:12
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:40:57
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:39:42
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:38:27
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:37:12
エラー	レコーダー接続失敗	2007/07/03 21:35:46

[日時フィルタ]

表示したい期間を指定してリスト上表示することができます。

[イベントログフィルタ設定]

下記内容ごとにフィルタリングしてリスト表示させることができます。

- ・ 「レコーダー接続失敗」
- ・ 「レコーダー時刻合わせ失敗」
- ・ 「レコーダー時刻合わせ成功」
- ・ 「レコーダー時刻取得失敗」

また、ログリストをダブルクリックすると詳細が表示されます。

## 6. コピーデータの再生

レコーダーから直接DVD-RやUSBメモリなどのコピーメディアにコピーされたデータや、区間ダウンロードを用いてレコーダーから通信経由でコピーしたデータを専用ビューワで再生します。

### 6.1 コピーデータをデータマネージャーの管理下に置く

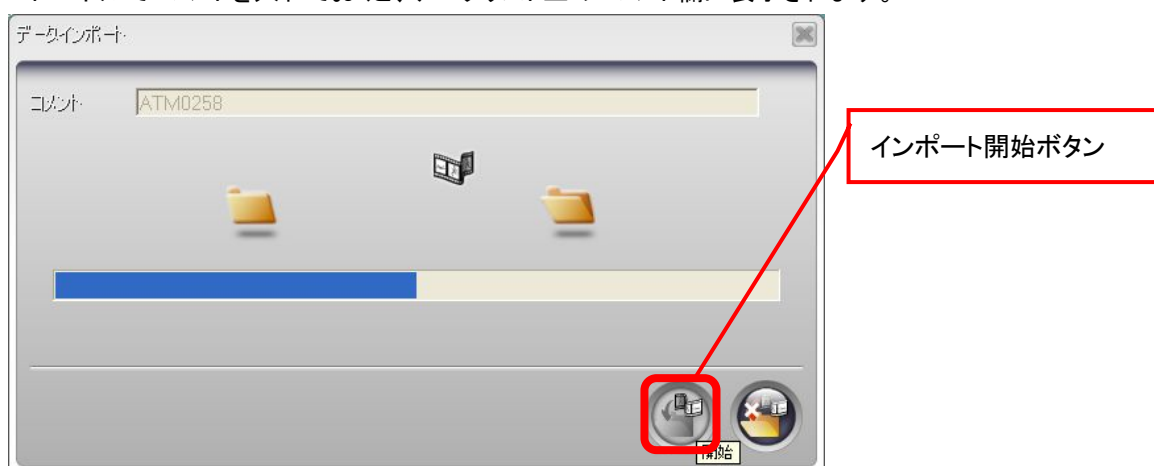
区間ダウンロードで入手したレコーダーの記録画像データはそのままデータマネージャーのデータリストタブの中に管理されています。レコーダーから外部メディアに直接コピーされた記録画像データは一旦PCで読み込んでデータマネージャーの管理下に置くことで再生することが可能になります。

外部メディア上、もしくはそこからPCのHDD上にコピーされたデータをデータマネージャーの管理下に置くためには、データマネージャーのデータインポート機能を使います。

データマネージャーを起動し、スケジュールリストタブからデータインポートボタンをクリックすれば、フォルダを選択するダイアログが開きます。



ここでインポートしたい記録画像データのフォルダを指定するとデータインポートパネルが開きます。データインポートパネルでコメントを入れておくと、データリスト上のコメント欄に表示されます。



#### お知らせ

外部メディア上からのデータインポートに失敗する時、データをPCのHDDに一度コピーしてからインポートを実行すると成功する場合があります。

## 6.2 コピーデータを再生する

データマネージャーのデータリストタブで再生したいコピーデータをリストから選択し、データ再生ボタンをクリックします。



データ再生用のビューソフトが起動し、データを読み込んだ状態でスタンバイします。あとは再生ボタンを押すだけでデータ再生が始まります。DX-Viewer がすでに起動している状態では「データ再生」ボタンを押しても DX-Viewer を利用することはできません。一旦 DX-Viewer を終了してから「データ再生」ボタンを押してください。

ビューソフト(DX-Viewer)の詳細な使用方法は次項以降で説明します。

## 6.3 コピーデータビューワ (DX-Viewer) の機能

DX-Viewer には 6.2 項で記載されている本ソフトウェアから起動させ、区間ダウンロードのデータを再生する方法以外にも、本ソフトウェアを起動せずに、単独起動した DX-Viewer でデータを読み込み再生する方法があります。単独起動した DX-Viewer で再生できるデータは下記のものになります。

- ・ データマネージャーからエクスポートされたコピーデータ
- ・ レコーダーから直接ディスクメディアや USB メモリなどのコピーメディアにコピーされたデータ
- ・ 本ソフトウェアのデータ CD/DVD 作成からディスクメディアにコピーされたデータ

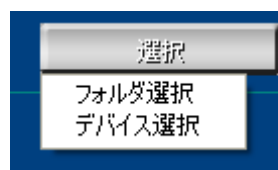
また、データの読み込み手順以外は本ソフトウェアから起動させた場合も DX-Viewer を単独で使用した場合と使用方法は同じです。

### 【単独起動した DX-Viewer でコピーデータを読み込む】

「スタート」ボタン-「すべてのプログラム」-「DX-PC60」または「DX-PC61」-「DX-Viewer」から DX-Viewer を単独で起動できます。

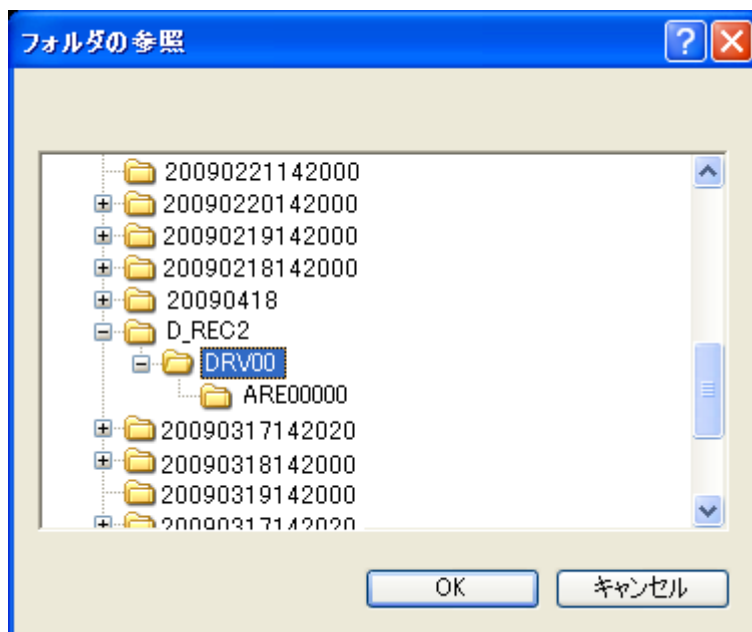
<フォルダから読み込む場合>

フォルダからコピーデータ(FSM 系フォーマット; 後述)を読み込むには、「選択」-「フォルダ選択」ボタンをクリックしてください。



再生するデータフォルダを指定するダイアログが表示されますので、下記記載のデータの入ったフォルダを選択して[OK]をクリックしてください。コピーデータの読み込みが始まります。

- ・ DX-TL6000シリーズではフォルダ内の「D-REC2」フォルダまたは下位の「DRV00」、「ARE00000」フォルダを指定してください。
- ・ DX-TL5500/DX-TL5000シリーズではフォルダ内の「D-REC」フォルダまたは下位の「VOL0000」フォルダを指定してください。
- ・ DX-TL2500シリーズでは「TL001」フォルダを指定してください。



#### お知らせ

##### 【「FSM」フォーマットについて】

[フォルダ]選択から再生できるデータは、三菱デジタルレコーダー専用コピーフォーマット「FSM1」、「FSM2」、「FSM3」「FSM4」に対応した画像データのみです。  
「FSM2」「FSM3」「FSM4」は、基本的に以下のファイル構成となります。このファイル構成を満たす必要があります。



●DX-TL2500シリーズ(「FSM2」ファイル構成)

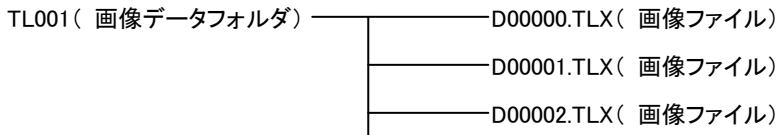
ALRM25 (アラームリストファイル)

DEVC25 (デバイス情報ファイル)

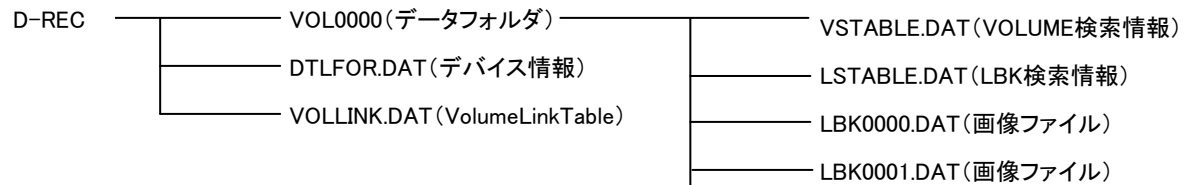
PIRT25 (パーティション情報ファイル)

SRCH25 (検索情報ファイル)

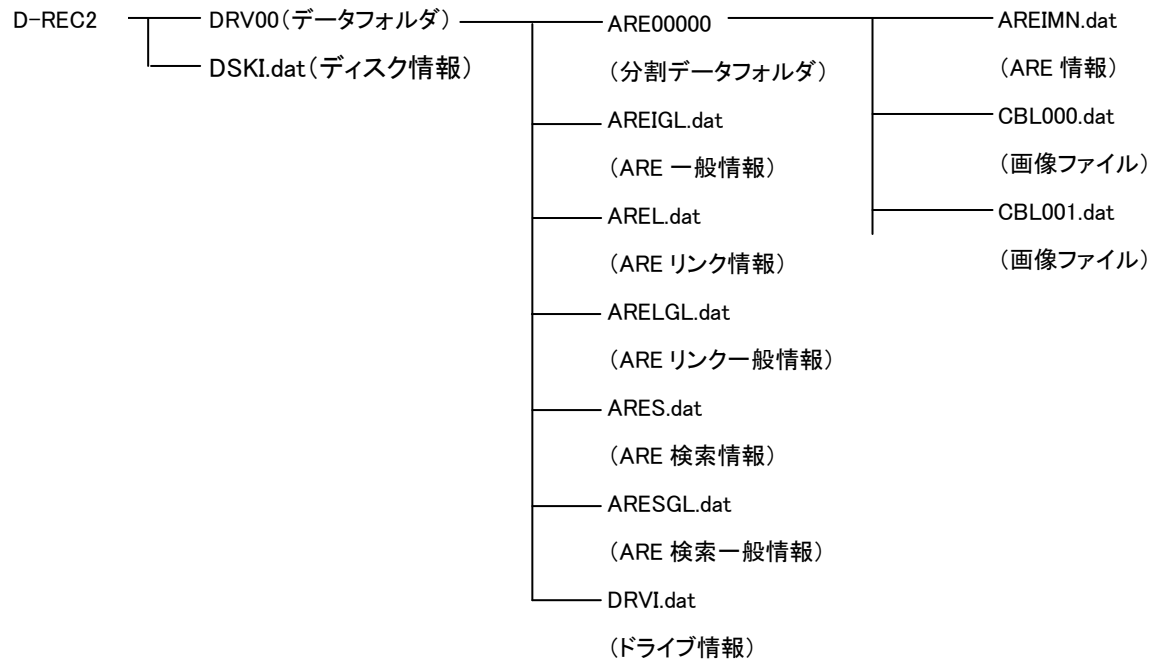
ESRC25 (拡張検索情報ファイル)



● DX-TL5500/DX-TL5000シリーズ(「FSM3」ファイル構成)

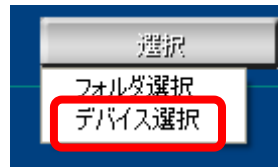


● DX-TL6000シリーズ(「FSM4」ファイル構成)



<デバイスから読み込む場合>

デバイスからコピーデータ(FSMU フォーマット; 後述)を読み込むには、「選択」-「デバイス選択」ボタンをクリックしてください。



下図のようなデバイスの選択ダイアログが表示されます。複数のデバイスが接続されている場合は、複数の選択肢が表示されます。コピーデータのあったデバイスを選択して[OK]をクリックしてください。コピーデータの読み込みが始まります。



#### 【「FSMU」フォーマットについて】

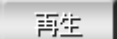
[デバイス]選択から再生できるデータは、三菱デジタルレコーダー専用コピーフォーマット「FSMU」に対応した画像データのみです。

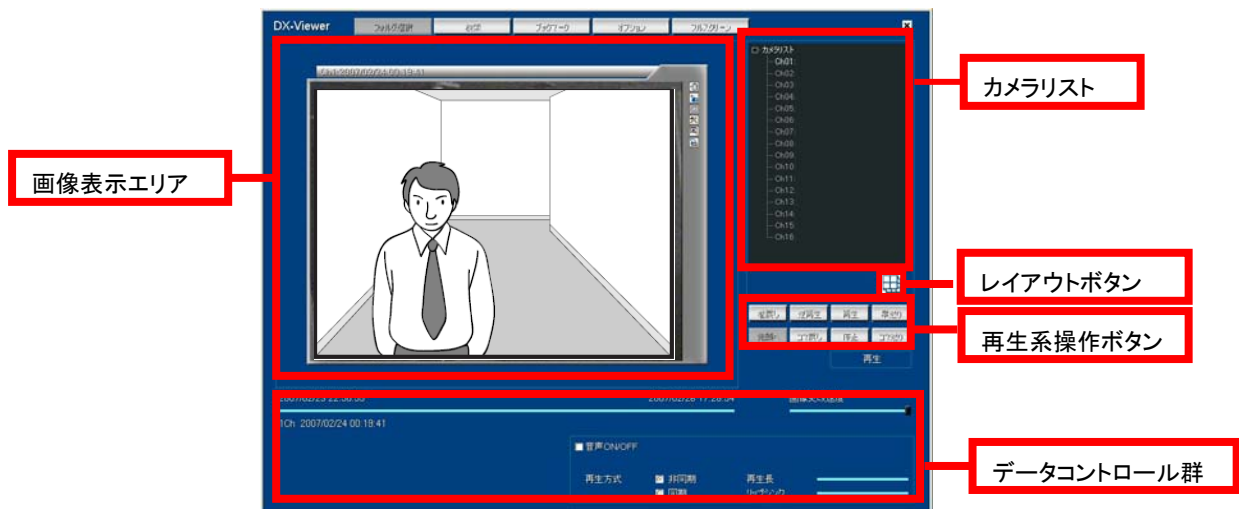
また、「FSMU」とは DX-ZD5 や DX-ZD6 にコピーされた DX-TL5000 系あるいは DX-TL6000 系のデータフォーマットの事です。

異なる複数のレコーダーから DX-ZD5/DX-ZD6 へコピーしたデータの場合、DX-Viewer で正常に再生できないことがあります。DX-ZD5/DX-ZD6 へのコピーは必ず同一モデルで構成するようにしてください。

## 【再生方法】

DX-Viewer を起動した場合、初期画面はch1～ch4 までの 4 分割表示になります。コピーデータの読み込みが終了した後、再生したいデータがあるchを選択してください。カメラリストからchをカメラウィンドウヘドラッグ・ドロップして選択するか、レイアウトボタンでデータがあるカメラ ch のレイアウトを表示してください。ch を選択せずに再生を開始した場合、画像データの存在する ch が適当な順番で表示されます。

再生ボタン  をクリックすると再生が始まります。

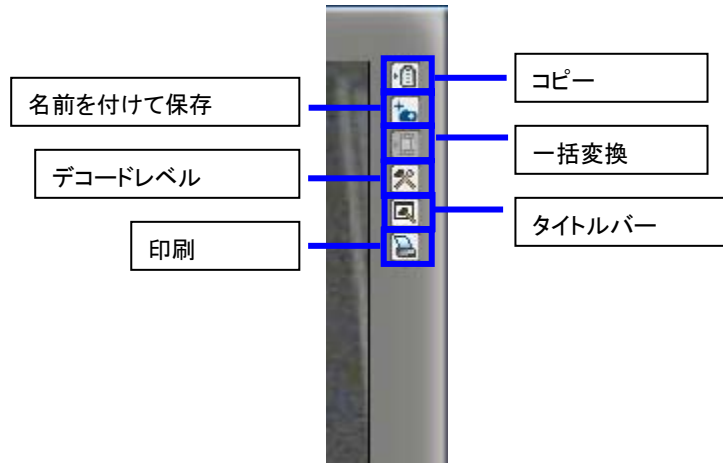


## お知らせ

- DX-Viewer はコピーデータに対して各種再生操作を行うことができますが、そのデータで実行不可能な機能ボタンなどは薄消し状態で表示されることがあります。
- データマネージャーから起動される場合は右上の×をクリックしてデータマネージャーに戻ることができます。
- DX-Viewer は適切な階層に置かれれば、起動時にデータを自動的に読み込みます。データマネージャーのエキスポートでの送付時や本ソフトウェアのデータ CD/DVD 作成での送付時などがそれにあたります。
- USB-HDD を使用するには Windows の Administrator 権限が必要です。また、Windows Vista、Windows 7 で USB-HDD を使用するには下記操作が必要です。
  - ①本ソフトウェアのインストールされたフォルダ下にある、Parts¥Player フォルダを開きます。
  - ②PlayerSC.exe を右クリックし、<プロパティ>をクリックします。
  - ③[互換性]タブを選択します。
  - ④<<特権レベル>>の「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックをいれます。
- DX-Viewer を他の PC 等で単独起動させる時にも Administrator 権限が必要です。

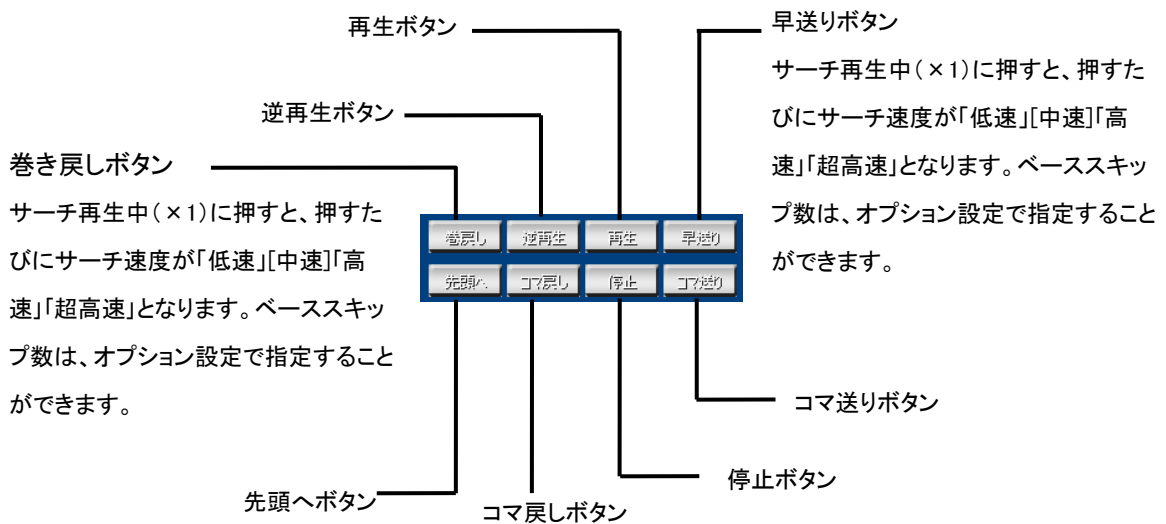
<画面表示エリア>

画像表示エリアの右側にボタンが並んでいます。  
このボタンで画像保存や印刷などが実行できます。



- ・コピー……………表示されている画像をクリップボードに取り込みます
- ・名前を付けて保存……表示されている画像を BMP で保存できます
- ・一括変換……………時刻で区間を指定して連続した JPEG か AVI の形式に変換できます。6.3.6 項参照。
- ・デコードレベル……………表示画像の解像度を変更できます
- ・タイトルバー……………タイトルバーに表示するアイテムを設定できます
- ・印刷……………表示している画像をプリンタに印刷します

<再生系操作ボタン>

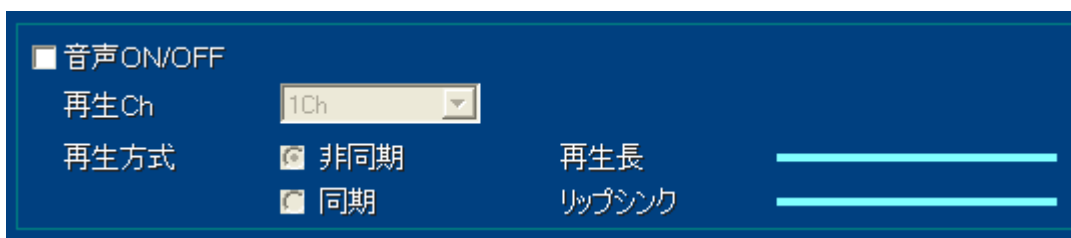


## お知らせ

- 高速再生、高速逆再生をしたままデータの終端に差し掛かった場合最後の数枚の画像を表示できないことがあります。再生またはコマ送りを行い読み込んだ終端の画像を表示してください。
- 表示カメラウィンドウを絞って再生などを行った場合、スライダーが最後まで届かない場合があります。
- 「早送り」「巻き戻し」のベースコマ数についてはオプションの項目を参照ください

### 6.3.1 音声データを再生する

コピーデータに音声データが含まれる時、次の操作で音声を再生することができます。



#### 【非同期】

[音声ON/OFF]にチェックマークを入れ、[再生Ch]をドロップダウンメニューから選択し、再生方式を[非同期]にします。再生を行い、音声を聞きたい場所で停止させます。停止したデータ部分の前後の音声は再生されます。再生する音声の長さは右側のスライダーで3段階に変更することができます。この時の音声実再生時間は記録画像のフレームレートによって異なりますので、再生データごとに適宜調整してご使用下さい。

#### 【同期】

再生方式を[同期]にして再生してください。ブロック単位で通信ダウンロードしたデータや、レコーダーでコピーした音声付きのデータを音声と映像を同時に再生することができます。この時表示できる画像chは1画面だけに限定されます。また通常再生以外の特殊再生モード(早送り、逆再生など)では音声は再生されません。リップシンクのスライダーは、ご使用になるPCおよび再生するデータの記録状態に合わせて調整が必要です。なお、音と映像がうまく一致する調整位置が存在しないこともあります。

## お知らせ

- データを記録したレコーダーの種類やデータの内容によっては、表示されなかったり操作できない項目があります。
- 同期音声再生を行う時は画像更新がPCの処理能力に応じて間引きされます。画像優先の再生を行いたいときは「非同期」を選択して下さい。
- 音声の再生chと画像の表示chは関連づけられていません。それぞれ自由な組み合わせで再生できます。

- CD・DVD などの読み出しが遅いドライブから直接再生をおこなっている場合は音声途切れる場合があります。データを HDD などにコピーしてから再生をおこなってください。
- 通常の区間ダウンロードでは音声データが付属しません。音声データの再生を行う場合にはブロック単位での区間ダウンロードをご使用下さい。
- 音声非同期再生又は、同期再生のみ対応のモデルがあります。またデータフォーマットの種類によっては非同期が選択できない場合があります。

### 6.3.2 コピーデータの画像を検索する

[検索]ボタンをクリックしてください。



下図のような検索ウィンドウが表示されます。

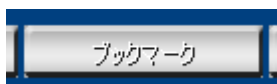
The screenshot shows a search window titled '検索' (Search). It contains several sections:

- 検索項目選択エリア (Search item selection area):** A sidebar on the left with options: アラームリスト (Alarm list), 時刻 (Time), and ブックマーク (Bookmark).
- 検索条件設定エリア (Search condition setting area):** The main area for setting search criteria. It includes:
  - アラームリスト (Alarm list): 2007/02/20 12:00:00 ~ 2007/02/20 12:50:00
  - 時刻 (Time): 2007/02/20, 12:55:00, and 取得アラーム数 (Number of alarms to retrieve) set to 10.
  - センサー (Sensors): A grid of 16 sensors with checkboxes and 'ALL OFF' buttons.
- リスト表示エリア (List display area):** A table with columns: No., 時刻 (Time), センサー (Sensor), and アラームタイプ (Alarm type). Below the table are buttons for '検索' (Search), 'Up', 'Down', and '保存...' (Save...).

このウィンドウから[アラームリスト検索]、[時刻検索]、[ブックマーク検索]を行うことができます。画面デザインは多少異なりますが、操作の詳細は 4.2.1.項、4.2.2.項、4.2.3.項を参照ください。

### 6.3.3 コピーデータにブックマークをつける

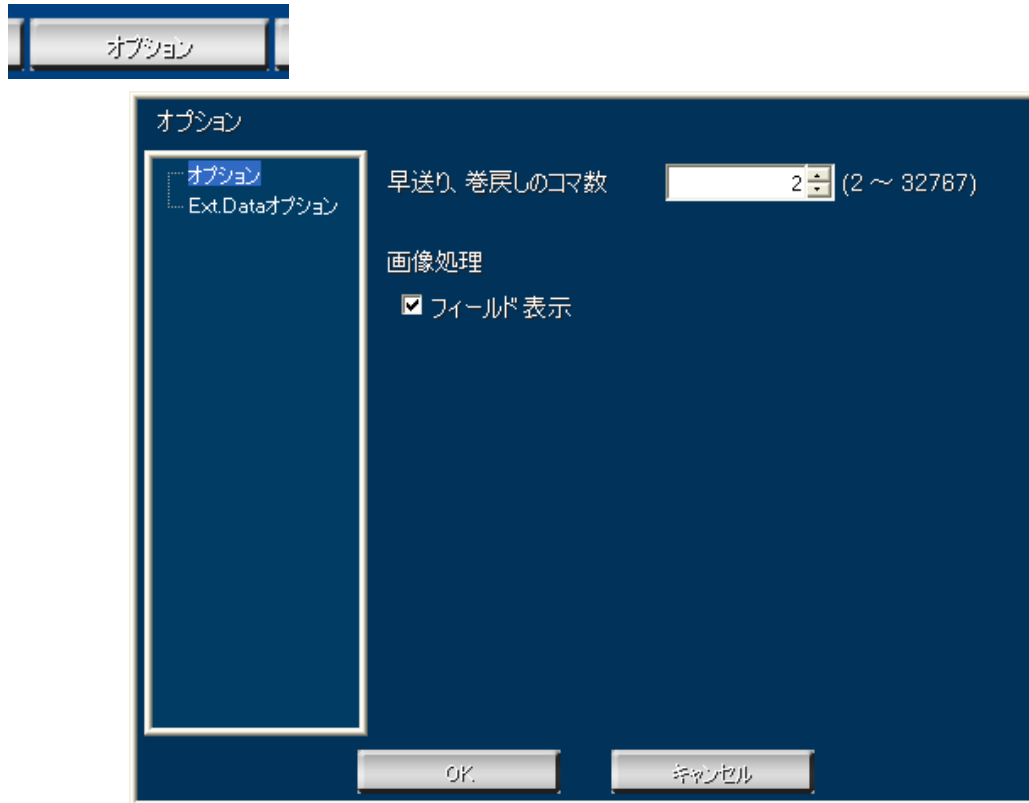
[ブックマーク]ボタンをクリックしてください。



再生ポイントをブックマークに登録することができます。ブックマークはDX-Viewerに記憶されますがDX-Viewerを終了した場合はブックマーク情報は失われます。ブックマーク情報を残したい場合は、[検索]ボタンで[ブックマーク]を選択し、[保存]ボタンでテキスト形式で保存することができます。

### 6.3.4 オプション設定をする

[オプション]ボタンをクリックしてください。



#### <早送り、巻戻しのコマ数>

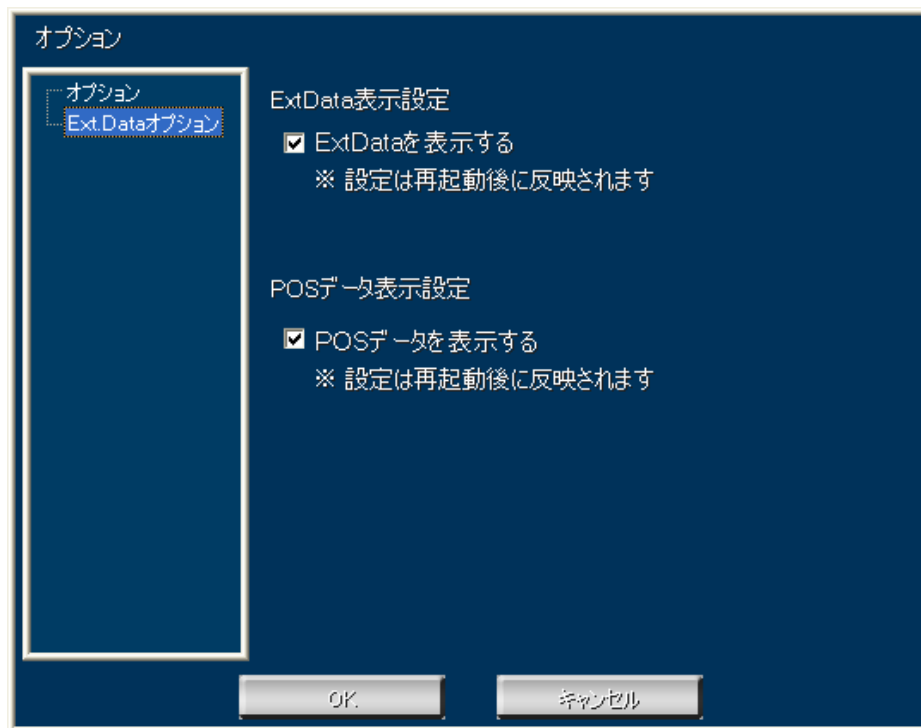
[早送り・巻き戻しのコマ数]のドロップダウンリストから早送り・巻き戻し時のベースコマ数を変更できます。早送り・巻き戻しのボタンで再生画像を送る際、1度のクリックでこのベースコマ数の分だけコマ飛ばしで進むことになります。早送り・巻き戻しボタンをもう一度クリックするとベースコマ数x2でのコマ飛ばし、もう一度クリックするとベースコマ数x4、さらにx8、そして再びx1に戻ります。

ベースコマ数は画面内の項目から設定できますが、レコーダーのモデルによっては頭打ちになる事もありますので、記録FPSやch数、PCスペック等により適宜快適な数値に変更してください。なお、大きな数字が必ずしも速くなるものとは限りません。

#### <画像処理>

[フィールド表示]のチェックボックスをONにすることにより、画像データの縦方向のライン数を半分の間引いた表示になります。フレーム記録された画像などで動きのある物体のブレが激しい場合にONにします。反対に、動きの少ない画像の場合はOFFにされる方が画質がアップします。この設定は画像を保存する場合や印刷する場合にも適用されます。この処理が有効になるのはMPEG機の記録画像データの場合のみです。

左側のツリーから[ExtData オプション]を選択すると画面が下図のように変わります。



#### <ExtData 表示設定>

ExtData を記録できるレコーダーモデルのデータの場合に画面上及び画像保存時、印刷時に ExtData を表示するかしないかを選択します。

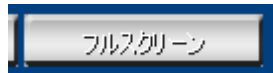
#### <POS データ表示設定>

POS データを記録できるレコーダーモデルのデータの場合に画面上及び画像保存時、印刷時に POS データを表示するかしないかを選択します。



### 6.3.5 フルスクリーン表示をする

[フルスクリーン]ボタンをクリックしてください。



右クリックで再生系操作ボタンを表示することができます。×ボタンでフルスクリーンを終了してDX-Viewer画面に戻ります。詳しくは3.3.7項参照ください。

### 6.3.6 コピーデータの画像フォーマットを一括変換する

コピーデータはJPEGまたはAVI形式の一般的な画像ファイルに一括変換することが可能です。カメラウインドウボタンの[一括変換]ボタンをクリックすると下のようなパネルが開きます。



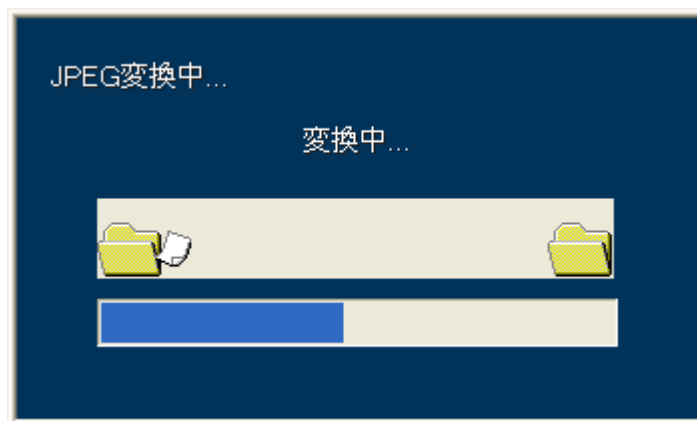
一括変換したい日時範囲とカメラ番号を指定後、[JPEG]または[AVI]ボタンをクリックすると、画像データを一括変換して保存します。

#### お知らせ

一括変換には十分なメモリと一時ファイル用のハードディスク容量などを必要とします。変換時のテンポラリファイルサイズが2GBを超える場合にも変換に失敗します。お使いの環境により限界はさまざまですので、数秒くらいの小さなファイル変換から初めて、状況を確認しながら行ってください。

<複数枚の JPEG データに変換する>

[一括変換]ダイアログの[JPEG]ボタンをクリックします。保存先を指定するためのダイアログが表示されます。保存先を指定後に[OK]ボタンをクリックすると、一括変換を開始し、変換中を示すダイアログが表示されます。



一括変換が完了すると、「JPEG変換が終わりました。」というメッセージボックスが表示されます。

<AVI ファイルに変換する>

[一括変換]ダイアログの[AVI]ボタンをクリックすると、次のようなAVIファイルの設定画面が表示されます。



画像サイズとフレームレートを指定して[変換]ボタンをクリックすると、保存先を指定するためのダイアログが表示されます。保存先を指定して[保存]ボタンをクリックして下さい。変換中を示すダイアログが表示され、最後に「AVI変換が終わりました。」というメッセージボックスが表示されます。

## 7. 付 録

### 7.1 制限事項

- 本ソフトウェアで操作可能な機能は、当社デジタルレコーダーのモデルごとに異なります。対応モデルについては、「対応デジタルレコーダー」の項を参照ください。
- 万一、動作障害が発生し、障害原因が当社デジタルレコーダーおよび本ソフトウェアか、その他の構成機器、付随するケーブル、アプリケーションソフトウェア、OS などに起因するものか判明しない場合には、当社デジタルレコーダーと本ソフトウェア、指定の OS のみがインストールされたパーソナルコンピュータ間を、指定の機材を用いた直結の条件（疑義を生じない範囲では、同等の機材で可）での動作確認により、障害原因の切り分け判断をするものとします。
- 本ソフトウェアの画像更改速度は、ご使用中のパーソナルコンピュータの CPU 処理能力や各種再生機器に依存します。（通信時にはネットワーク負荷などによっても変化します。）したがって、本ソフトウェアの再生速度はデジタルレコーダーで記録された記録間隔とは一致しない場合があります。
- 記録時刻が前後しているメディアでは、正しく再生できないことがあります。
- メディアの記録状態によっては、検索・再生などが正しく動作しないことがあります。
- ご使用のプリンタまたはプリンタドライバによっては、画像または文字が正しく印刷されないことがあります。
- 本ソフトウェアでは、多くの画像データを表示または展開するために大量のメモリを消費します。他のアプリケーションと同時に起動することは避けてください。また複数台のレコーダーに接続していたり画面を頻繁に切り替えた場合などにも大量のメモリを消費します。動作に違和感が生じた場合は再起動するなどしてください。
- 本ソフトウェア で再生される画質は、デジタルレコーダーでの記録時の画質設定に依存します。
- 他のネットワーク機器と同じネットワーク上で使用すると、所望の性能を得られないことがあります。このような場合は、ネットワークを分離するなどの対策を行ってください。
- デジタルレコーダーのモニターにメニュー画面などを表示していると、各種情報を正常に取り込むことができません。メニュー画面などを表示しない状態でお使いください。
- デジタルレコーダーの画面表示の一部は、通信で解除できないものがあります。
- 通信による画像検索でデジタルレコーダーの内部検索時間が 30 秒を越えるものについては、画像を取り出せないことがあります。画像だけでなくあらゆる情報に於いても同様です。
- 通信による画像取得が安定しない場合は、画像更改速度スライダーで画像要求スピードを遅くすると、改善されることがあります。
- デジタルレコーダー本体操作での画像検索中に通信機能を使用すると、検索が途中で中断されることがあります。また、通信機能を使用中にデジタルレコーダー本体操作で画像を検索したときも、検索が途中で中断されることがあります。
- PC の動作環境やファイル破損によって再インストールを促すメッセージが表示されることがあります。このような場合には再インストールを行い、症状が改善しない場合には動作環境をご確認の上、販売店にお問い合わせ下さい。
- 仕様は予告無く変更されることがあります。